

職權ヲ濫用シ他ノ租界ニ比シ甚シキモノアリ是要スルニ地

方軍政長官ニ於テ交渉ニ藉口シ安寧ヲ粉飾シ租界回収期ニ至リ事件ヲ釀ス所以ナルガ故ニ上下一致協力シテ根本的ニ抵制スベシ

該省首席ハ延邊各地方行政公署ニ轉飭シ今後日本總領事館

同分館及其ノ日警等ノ侵權越法等ノ舉動ノ有無ヲ内査申報シ以テ來ル第五次全體會議ノ際之ニ對スル適法ナル辦法ヲ講ズルコトニセラレ度就テハ該處長ハ本訓ヲ體シ日警撤廢上ノ資料ヲ蒐集シ申報相成度シ

中華民國十九年十二月二十日

監督 張書翰

代理延吉縣々長 孫象乾

550 昭和5年12月27日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

東北政況に關する劉哲の時局談について

奉天 本省 12月27日後着 発

第六二二號

2 中原大戰關係

551 昭和5年4月(3)日 在中國矢野公使館書記官より
幣原外務大臣宛（電報）

朱鶴翔を中華民國陸海空軍總司令部外交署署

長に任命した旨の闇による申入れについて

別電 四月三日着在中国矢野公使館書記官より幣

原外務大臣宛第二五四号

閻の外交團に対する申入れ

北平 本省 4月3日後着 発

第二五三號

平津衛戍總司令部參議朱鶴翔四月三日本官ヲ來訪シ昨夜闇

總司令官ヨリ自分ヲ中華民國陸海空軍總司令部外交署々長ニ任命シ外交檔案保管所ニ外交署ヲ設置シ右ニ關連シ外交團ニ申入（別電第二五四號）ヲナスヘキ旨電訓ニ接シタル

ニ依リ御伺ヒスル次第ナリト述ヘ尙今回闇總司令ノ外交署設置ハ廳テ正式政府組織ノ前提ニシテ内政部モ近ク設立セラルヘキコト闇ハ目下太原ニアルモ馮ノ鄭州進出ヲ俟チテ

廿七日劉哲ノ時局談左ノ通

一、河北ニ於ケル軍費ハ東北ニ於テ支辨スルモ現有山西及西北軍廿六萬ハ自給自足方針ニ依リ減少改編セントスルヲ以テ最困難ヲ感シ居リ從テ學良ノ年内歸奉ハ到底不可能ノ見込ナリ

一、王樹翰ノ國民政府委員就任ハ學良及政務委員共ニ希望セサル所ナルモ本人ハ乘氣トナリ居ルヲ以テ萬一實現スル場合ニハ現教育廳長吳家象代リテ秘書長タルヘシ

一、劉尚清ハ南方ノ事情ニ通セス南方ノ言葉モ解ラス且老齡ナルヲ以テ任ニ堪ヘサルヘキモ學良在京中話合ノ關係モアリ又現在ノ政務委員中ニハ他ニ適任者ナキヲ以テ已ムナク赴任セシメタル次第ナリ

一、來年一月一日ヨリ財政、鐵道ノ南京移管說アル處右ハ素ヨリ單ニ名義上ニ止マリ實質的ニハ何等變更ナキ力如シ

一、政務委員中ニハ東北政務委員會取消ヲ希望スルモノア

ルモ只今ノ處其ノ取消ハ到底不可能ナリ
代理公使、北平、天津、南京へ轉電セリ

石家莊ニ來リ軍事進展ノ模様ニ依リ北平ニ乗り出シ來ルヘキコト今回闇ノ措置ハ蔣一個人ニ對スルモノニシテ國民黨並ニ國民政府ニ對スルモノニ非サルニ付蔣下野セハ問題解決シ國都ハ北平ニ移ルコトトナルヘシ云々ト附言セリ

上海、南京、漢口、廣東、福州、濟南、青島、奉天、天津、吉林、哈爾賓へ轉電シ、張家口へ暗送セリ

（別電）

北平 本省 4月3日後着 發

第二五四號

黨國ハ不幸ニモ中樞ハ一人ノ竊據スル處トナリ私ヲ營ミ公職ヲ湯シ政治ハ其ノ重心ヲ失ヒ中國ノ和平統一ハ爲ニ破壞セラル余ハ軍人ノ請求切ナル爲四月一日中華民國陸海空軍總司令ノ職ニ就ケリ死ヲ誓テ討伐シ以テ和平統一ノ速ニ實現センコトヲ期待ス茲ニ凡ソ本軍管轄内ニアル各友邦居留民ノ生命財產ハ一律ニ保護スルヲ特ニ聲明ス各友邦ハ克ク中國國民ノ眞意ヲ重視セラレ統一ヲ破壊シ民衆ヲ苦シムル者ニ對シ精神上物質上ノ援助ヲ與ヘ禍亂延長ノ資トナサル

北平 発
本省 5月1日前着

貴電第八四號ニ關シ
第三五號

一、外交處設置ノ際之ニ對スル列國ノ採ルヘキ態度ニ付テ
ハ當時首席公使其ノ他二三ノ公使ノ意見ヲ徵シタルカ
何レモ其ノ儘トナシ置クヘシトノ意見ニテ爾來本件ニ
關シ何等外交團會議等開カレタルコトナシ

二、本件ニ關シ廿八日英米佛丁各公使館側ノ説明大要左ノ
通

(1) 英國代理公使

地方的ノ問題ヲ實際上解決スルニ當リテハ其ノ地方
ニ於テ實權ヲ有スルモノト交渉スルノ外ナク現ニ最
近秦皇島ニ於ケル英人宣教師殺害事件開灘炭坑ニ於
ケル森林伐採事件（同地方民等力共產黨員ニ煽動セ
ラレ開灘炭坑ノ坑木用樹木多數ヲ伐採セル事件）一
英國會社ノ買辦カ京津間ニテ匪徒ニ抑留セラレタル
事件ニ付直ニ當地外交處其ノ他ノ官憲ニ交渉シ何レ
モ直ニ適當ノ措置ヲ採ラシメタルカ右等交渉ニ當リ

(2) 米國代理公使
ナシ

我方ハ今日迄殆ト北方側ト交渉ヲ要スル事件起ラサ
ルモ已ムヲ得サル場合ニハ形式及字句ニ注意シテ當
方官憲ヲ相手ニ交渉スルニ躊躇セサルヘシ即チ斯ル
場合ニハ例ヘハ警備司令李服膺北平市長張蔭梧等ニ
宛テタル公文ニハ右等官憲カ南京政府時代ヨリ官職
ニ就キ居レルニ付夫々官名ヲ用フルモ閻錫山、朱鶴
翔ノ如キニ對シテハ新官名ヲ附スルヲ避ケ成ルヘク
「パーソナル、フォウム」ヲ用ヒテ申入ヲ爲スコト
ハ何等差支ナシト考ヘ居レリ

尤モ若シ新官名ヲ附シテ正式文書ヲ發送スルノ必要
アル重大事件起ル時ハ一應國務省ニ請訓スル積リナ
リ

最近起リタル山西省ノ煙草專賣事件ニ對シテハ（本

件ハ一八四四年條約第一五條ノ違反問題ナリ）必要
アラハ直接闇ト交渉スル筈ナリ

(4) 佛國公使

今日迄現實ノ問題起ラサルモ必要起ラハ何等躊躇ス
ス

尤モ此等地方官憲ト直接接觸スル場合モ必要ニ依リ
テハ南京政府其ノ他ニ對シ形式上申入ヲ爲スコトア
リ例ヘハ宣教師殺害事件ニ付テハ形式上王正廷ニ申
入ヲ爲スト共ニ同地方ニハ奉天派ノ軍守備シ居ルニ
付張學良ニモ抗議セリ又葫蘆島問題ニ付テハ南京及
奉天ニ抗議セリ

之ヲ要スルニ我方ノ方針トシテハ在留民ノ利益擁護
乃至救濟ニ關シテハ常ニ實際的手段及方法ニ依リ其
ノ目的ヲ達セムコトヲ期シ居レリ支那側ノ現狀ニテ
ハ地方ニ起リ地方的ニ解決シ得ヘキ小事件ニ付テハ
當該地方官憲ト接觸交渉スルノ外ナキハ南京政府ト
雖良ク諒解シ居ル處ニシテ之力爲我方カ北方政府ヲ
承認シタリヤノ疑等ハ起リ得ヘシトハ想像シ居ラス
何レニスルモ今回當地方官憲ヲ相手ニスルハ從來ノ
例ニ依リタルモノニシテ何等ノ指圖ヲ請ヒタルコト

ルコトナク閻又ハ朱ニ正式公文ヲ送ル心組ニテ要ス
ルニ目的ヲ達スル爲ニハ相手ノ如何ヲ問ハス交渉ス
ヘク例ヘハ龍州領事放逐事件ニ付テハ一應形式上南
京ニ抗議シ寫ヲ李宗仁及閻錫山ニ送ル積リナリ
丁抹公使館員（丁抹ハ首席公使）

今日迄何等事實問題起ラサルモ必要起ラハ「インフ
オーマル、ウエイズ」ニテ支那側ト接觸スル積リナ
リ

右ノ如ク各國ノ考ヘ方ハ區々ニ涉リ居レル處我方ト
シテハ暫ク事態ヲ見送リ差當リテハ米國公使館同様
必要ノ際ニハ非公式ニ北方官憲ト折衝シ文書ヲ以テ
交渉ノ必要アル時ハ官名等ニ注意シナルヘク覺書等
ノ形式ヲ用フルコト然ルヘキヤニ存セラル

上海、南京、奉天へ轉電セリ

~~~~~

昭和5年5月(2)日 在中國矢野公使館書記官より  
幣原外務大臣宛（電報）

閻の動向に対し東北側は中立との危機感など  
の内話につき報告

北平 発  
本省 5月2日後着

第三二三號

往電第三一〇号ニ關シ

一日危道豐、耿堅白、祝惺元力原田ニ爲セル内話

## (一) 危道豐

(1) 目下奉天ニ在ル閻錫山代表楊廷博ノ來翰（危ハ之ヲ原田ニ示セリ）ニ依レハ楊ハ張學良、王樹翰ト數回會見

ノ結果奉天ハ嚴正中立ニテ決シテ漁夫ノ利ヲ占ムルカ

如キ事無キヲ確メ得タル趣ニテ王ハ馮力門致中ヲ派遣シ越セルニ對シ張モ亦前軍長富占魁ヲ派シ于學忠ハ劉一誠ヲ代表トンシ閻ノ下ニ送リ他方羅文幹モ來平シ次イテ孫傳芳モ近ク閣ト會見ノ爲來平ノ筈ニテ閻、馮對張學良ノ關係ハ漸次密接ナラムトスル傾向ヲ生シ來リタル程ニテ張ノ態度ニ關シ種々ノ說アルハ何レモ蔣派ノ宣傳ニ外ナラス

(2) 目下當地ニ在ル羅文幹（張學良高等顧問）ハ賈景德ノ招電ニ接シ來平シタルモノニテ賈ハ閻ヲ代表シ羅ニ對シ財政委員長引受ケ方交渉シタルニ羅ハ就任條件トシ

テ一、自分ハ黨人ニ非サルカ故ニ黨ノ束縛ヲ受ケサルコトニ、閻ノ財政方針ヲ示サレ度キコトニ、現在以上各種雜稅ノ徵收ヲ爲ササルコトノ三項ヲ申入レ右ハ一應張學良ノ同意ヲ要スル旨述ヘタル結果賈ハ此ノ義閻ニ請訓シ羅モ亦一日天津ヲ經テ奉天ニ向フ筈尙外交委員長ハ閻トシテハ顧維鈞ヲ囑望シ居レルモ若シ顧力引受ケサル場合ハ多分羅カ財政ト共ニ外交ヲモ引受ケルコトトナルヘシ

## (二) 耿堅白

羅文幹ハ賈ヨリノ招致ヲ機會ニ張ノ意ヲ受ケ當方面ニケル閻、馮連繫ノ實狀調査並ニ奉天ノ之ニ處スル態度等研究中ノ處羅ハ豫テ當地ニ在リタル湯爾和トノ間ニ奉天トシテハ嚴正中立ニ一步ヲ進メ閻、馮ヲ支持スルコトノ有利ナルニ意見ノ一致ヲ見タル結果羅及湯ハ天津ニアル胡若愚ト共ニ張學良勸說ノ爲一兩日中奉天ニ向フ筈レリ云々

## (三) 祝惺元

往電第三一九號閻ノ天津關稅差押ヘ命令ノ發出ハ事實ナルカ外國關係ノ擔保部分ニハ手ヲ觸レサルコトト成リ居レリ云々

上海、南京、漢口、廣東、福州、青島、濟南、天津、奉天へ轉電シ吉林、哈爾賓、張家口へ暗送セリ

558 昭和5年5月3日 在中國矢野公使館書記官より 常原外務大臣宛（電報）

中國外交諸問題に対する閻側の動向につき朱外交處長の外字記者との会談要旨報告

北平 5月3日後発

本省 5月4日前着

第三二九號

(1) 一日朱鶴翔ノ外字記者ニ對スル會見談ノ要領左ノ通

## 一、政府及黨

南京ノ宣傳ニ依リ外人ハ一般ニ支那ノ實情ヲ誤解シ居

レリ閻總司令ハ馮玉祥及汪精衛ト完全ナル協調ヲ保チ

居リ國民黨ノ各派ノ諸領袖モ爭意ヲ捨テ整個ノ黨ヲ組

織ニ贊成シ近々右ノ黨組織完成セハ速ニ合法的政府樹立セラルヘシ閻總司令ハ軍政府若ハ臨時政府ノ組織ヲ廢シ民意ニ副フ合法確實ナル政府ヲ正規ノ手續ニ依リ

北平ニ設立スヘク目下着々進行中ナリ

三、在支鐵道問題

東支問題解決ノ爲莫德惠ハ昨日莫斯科ニ向ケ出發セル  
カ本問題ハ東三省民ノ生命財産ニ重大ナル損失ヲ齎ラ  
セル戰爭ヲ惹起スルヲ要セシテ昨年七月適當ニ解決  
サレ得タル筈ノモノナリ當時哈爾賓地方當局ハ露國ノ  
我東支鐵道ニ對スル權利侵害ニ激昂シ中央政府ヨリ東  
支鐵道奪取ノ命令アランコトヲ熟望シ居リタルモノナ  
ルカ中央政府トシテハ方策決定上今少シク慎重ノ考慮  
ヲナスヘカリシナリ莫斯科ハ支那ノ不統一ヲ口實トシ  
一九二四年ノ露支協定ニ基ク會議ノ開催ヲ拒絶シ來リ  
タルカ右ハ露國側ノ單ナル口實ニ過キシテ支那ハ當  
時統一セラレ居リ我方ヨリハ當然露支協定ニ依リ會議  
開催ヲ申込東支問題其ノ他ノ件ヲ討議スル事ヲ得タル  
ヘク莫斯科力之ヲ拒絶セハ世界ノ正義ニ訴フル事ヲ得  
タル筈ナリ然ルニ七月王正廷ハ北平ニ來リ蔣介石ト東  
支問題ヲ協議シ强硬政策ヲ取ルニ決シ

哈爾賓當局ニ對シ之カ實行ヲ命シ結局東北地方ヲシテ  
巨大ナル損害ヲ受ケシメ遂ニ南京ハ其ノ責任ヲ奉天ニ  
轉嫁シ蔡運升ヲ責ムルニ至レリ要スルニ當時外國ノ意  
見ハ支那ニ不利ナリシモ南京ハ其ノ勢力ヲ東三省ニ普

及スル爲奉天ノ實力ヲ殺ク必要上國際戰爭ヲ起シタル  
モノナルカ結果ハ其ノ意圖ニ反シ全國民ノ反感ヲ買ヘ  
ルモノナリ但シ莫德惠ハ有能ノ士ナレハ自由ノ措置ヲ  
許サハ會議ニ成功スヘシ

#### 四、日支互惠關稅協定

南方消息ニ依レハ本件協定ハ近ク調印セラルヘク日本  
ハ支那ノ現狀ヲ利用シテ極メテ有利ナル結果ヲ獲得セ  
ントノ事ナルカ自分ハ本件協定ノ正確ナル内容ヲ知ラ  
サルモ前記消息カ真ナリトハ信シ居ラス日本ハ北支ニ  
於テ大ナル通商上ノ利益ヲ有シ居リ閻總司令ハ經濟政  
策上日本カ支那ノ協力ヲ必要トスル事ヲ深ク知リ居ル  
カ故ニ常ニ日本ニ關シ正當且友誼的態度ヲ執リ來レリ  
若シ日本ニシテ其ノ通商經濟上ノ利益ヲ伸張セント欲  
シ且支那人民ノ諒解ヲ贏チ得ントスルニ於テハ余ハ日  
本カ支那ノ現狀ヲ利用シ南京ヨリ不當ナル利益ヲ獲得  
スル事ニ依リ支那人民ノ好感ヲ失ハント欲スルカ如キ  
事ナカルヘキヲ確信ス（下略）

上海、南京、廣東、漢口、青島、濟南、福州、奉天ニ轉電  
シ天津、張家口ニ郵送シ奉天ヨリ哈爾賓、吉林ヘ郵送セシム

559

昭和5年5月20日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

#### 南京側による船舶臨検要請に張學良は応ぜずと の東北海軍司令部黃參謀長代理の談話について

奉天 本省 5月20日前着 発

第一九九號

天津封鎖ニ關スル東北海軍ノ行動ニ付テ十九日當地東北海  
軍司令部參謀長代理黃緒虞（最近迄南京ニ駐在シ居タリ）  
ノ興津ニ對スル談左通

本件ノ如キ重要問題ハ陳司令及張學良間ニ直接協議セラル  
ルヲ以テ真相ヲ知ルニ由ナキ處南京政府側ノ希望トシテハ  
當然アリ得ヘキコトナルモ果シテ實行セラルルヤ否ヤハ學  
良ノ時局ニ對スル態度ニ依リ判断スル外ナカルヘシ自分ノ  
觀測トシテハ學良ハ或ル程度迄南京側ニ引摺ラレ居ルモ重  
要問題ニ關シテハ南北双方ニ對シ不即不離ノ方針ヲ執リツ  
ツアル關係上本件南京政府ノ希望ヲ直ニ容認スルカ如キコ  
トハアリ得ヘカラスト考ヘラル云々

青島、天津、芝罘、上海、南京、北平ニ轉電セリ

560

昭和5年5月24日 在中國矢野公使館書記官より  
幣原外務大臣宛（電報）

#### 地方的外交事務は外交處で處理すべき旨の閣 の訓令について

北平 本省 5月24日後着 発

第三七九號

廿三日朱鶴翔ノ毎週外字記者會見談中左ノ點アリ  
(一)閻總司令ハ管下ノ行政及軍政官廳對シ外交處ハ外交事務  
取扱ノ中樞ナルカ故ニ舊交渉員ノ取扱ヒタル地方的外交事  
務ハ同所ニ請訓ノ上處理スヘキ旨訓令セリ  
(二)外字記者ノ戰線視察希望ニ對シ閻ハ馮玉祥ノ同意ヲ得タ  
ルニ對シ我軍カ今少シク前進セハ視察ノ便宜ヲ計ルヘシ  
(三)天津海關問題ニ付テハ「ベル」ハ閻ノ命令ニ服セス五分  
稅以外ノ收入ヲ香上銀行ニ預入レ居リ閻ハ通商維持ノ見地  
ヨリ今日迄強硬手段ヲ執ルコトヲ避ケ居レルモ目下右收入  
ヲ北方ニ保存方ニ關シ適當措置方考慮中ナリ

561 昭和5年6月7日 在杭州米内山(庸夫)領事代理より  
幣原外務大臣宛

国民政府宣伝部による日本の北方援助説に關し報告

機密第一四三號 (6月18日接受)

昭和五年六月七日

在杭州 領事代理 米内山 庸夫〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

日本ノ北方援助説宣傳ニ關シ報告ノ件

當地國民黨機關紙ハ五日南京電トシテ大要左ノ如キ電報ヲ

掲ケ居レリ

中央宣傳部ハ五日午後各新聞記者二十餘人ヲ招待シ左ノ如キ報告ヲ爲セリ

一、閻錫山、馮玉祥ハ帝國主義ト勾結シテ黨國ヲ危害セントスルモノナリ

最近閻錫山ハ人ヲ派シテ(王承斌トノ說アリ)日本大倉組ト秘密借款ヲ爲シ武器ヲ購入スルコトヽナリ草約ハ已ニ決定シタリトノコトナリ

又馮玉祥ハ丁某(暫ク其ノ名ヲ宣布セス)ヲシテ日本

因ニ上海日本新聞ハ總テ先月末以來當地ニ郵送セラレ居

右御参考迄ニ報告ス

本信寫送付先 在支公使 北平 上海 南京

562 昭和5年6月9日 在中国矢野公使館書記官より  
幣原外務大臣宛

濟南方面の戰況などに關する朱外交處長の新聞記者會見について

公第五四五號

昭和五年六月九日 (6月17日接受)

在支那日本公使館

公使館一等書記官 矢野 真〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

朱鶴翔毎週記者會見聲明要旨報告ノ件

六月七日ノ「リーダー」ニ依レハ六日朱鶴翔ハ毎週新聞記者トノ定期會見ニ於テ大要左ノ通聲明セル趣ナリ

(一)天津海關收入ニ關シ閻總司令ハ五分正稅以外ノ收入ハ五月一日以後支那銀行ニ預入シ上海ニ送金セサル様命令シタルニ拘ラス五月一日就任セル天津稅務司「ベル」ハ之ヲ香上銀行ニ預入レ閻ヨリノ警告ニ拘ハラス同銀行ヨリ上海ニ送金セラレ居ルコト最近ニ至リ判明セリ本件ニ關

シテハ閻ノ平穩解決ノ趣旨ニ基キ五月六日以來諸種ノ折衷案提議セラレ其一タル内外銀行ヲ以テ構成スル委員會ニ於テ時局平定迄收入ヲ管理スルノ案ニ付「ベル」ヨリ「メーズ」ニ電請シタルニ「メ」ハ之ヲ拒絕セリ之ト殆

ト同時ニ宋子文ハ「メ」ニ對シ軍費壹千萬元ヲ要求シタルカ北方側ハ「メ」及「ベ」ヲ南方臘貢ト認メ居リ北京

各通信社ヲ買收シテ謠言ヲ放タシメ中央ヲ中傷セシムルコトヽセリコノコトハ已ニ成功シタリ故ニ日本通信社及新聞力任意ニ謠言ヲ傳播シツヽアリ(中略)

コノ種ノ惡意宣傳ハ識者ノ一笑ニ值セス只タ閻馮力日本新聞ハ最近マタ廣西軍ノ長沙占領說ヲ登載シツヽアルカ總テ虛報ナリ蔣主席及熊司令ハ日本新聞紙捏造ニ對シ極メテ注意シツヽアリ先ツ中央ヨリ日本新聞ニ警告ヲ發シ仍ホ悟ラザレハ中央ニ於テ適宜ノ處置ヲトルヘシ云々

738

563 昭和5年6月23日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛(電報)

時局に対する東北側の中立的態度につき王家楨の談話について

奉天 本省 6月23日後着 発

739

第二六九號

昭和五年六月二十八日

在廣東

廿三日王家楨ハ森島トノ雑談中時局ニ對スル東北側ノ態度  
ニ關シ東三省ハ當初ヨリ一貫セル方針ヲ以テ終始シ居ル次  
第ニシテ南京側ニ好意ヲ寄セ居ルハ事實ナルモサリトテ出

兵スルカ如キコトナカルヘキ件並ニ南北双方ニ對シ其ノ態  
度ヲ明白ニ表明スルコトナカルヘキコトノ二件ハ自分トシ  
テ確言シ得ル所ニシテ右ハ今後共變更スルコトナカルヘシ  
ト述ヘタルニ付森島ヨリ張學良ノ副司令任命ノ件並ニ天津  
海關閉鎖ニ件フ東北海軍ノ外國船臨檢ノ件ニ言及シタルニ

王ハ右兩件モ前述東北側ノ態度ニ依リ推察シ得ヘク學良力  
就任スルカ如キコトハナカルヘク又東北海軍ハ假令南京側  
ノ命令アルモ臨檢ニ當ルコトナカルヘシト述ヘタル趣ナリ

支、上海、天津、南京、漢口、濟南、青島、芝罘、關東廳

ニ轉電セリ

564 昭和5年6月28日 在廣東須磨(彌吉郎)總領事代理より  
幣原外務大臣宛

鄧建設廳長による軍政狀況報告演説の要領訳報

公第六二一號

(7月15日接受)

省略(六月二十四日附公第六〇〇號拙信參照)

二、中央軍事

前週中平漢線方面ニ於テハ我軍力一部ノ兵力ヲ湖南ニ異  
動セシメタル爲メ敵ニ虛ヲ衝カレ我軍一時頓挫シタルモ  
間モ無ク我力伏兵之ヲ擊滅シ再進スル能ハサラシメタリ  
隴海方面ノ敵ハ我軍ヲ壓迫セントシテ却テ我軍ニ擊滅セ  
ラレ大損害ヲ受ケ孫良誠ハ重傷シ吉鴻昌ハ戰死セリ且下

省政府紀念週ニ於ケル建設廳長鄧彥華ノ報告譯報ノ件  
六月二十三日省政府ニ於テ舉行セラレタル黨部、政府及軍  
部ノ聯合紀念週(建設廳長鄧彥華、民政廳長許崇清、教育  
廳長金曾澄、省政府秘書長孫希文、高等法院長羅文莊等ヲ  
始メ其他省政府及總指揮部ノ職員等三百餘名出席)ニ於  
ケル建設廳長鄧彥華ノ前週中ノ軍政狀況報告演説要領何等  
御参考迄左ニ譯報ス

一、沙基慘案

外務大臣男爵 壁原 喜重郎殿

總領事代理 須磨 彌吉郎〔印〕

我軍ハ開封ニ向テ進撃中ナリ津浦方面ノ敵ハ青城、肥城  
ニ於テ我軍ト擊戦數回我軍ニ擊退セラレ敵ハ其ノ如何ト  
モスル能ハサルヲ知リ外國記者ヲシテ反動宣傳ヲ爲サシ  
メ瀕リニ謠言ヲ放タシメ居ルモ一笑ニモ值セサルナリ  
中央ハ現ニ張學良ヲ海陸空軍副司令ニ任命シタルヲ以テ  
同氏ハ近ク關内ニ出兵津浦線ニ於ケル敵軍ヲ包圍シ之力  
解決ヲ速カナラシムヘシ  
勝算無キヲ知リタル逆軍ハ天津ノ海關收入ヲ掌握セント  
スルモ中央ハ之ヲ封鎖シタリ

三、湖南軍事

前週中何總指揮(健)ハ已ニ長沙ヲ克復、湖南政府亦常德ヨ  
リ長沙ニ歸リ公務ヲ處理シツヘアリ

張桂軍ハ長沙ヨリ退却シ江西ニ逃レントシツヘアルモ第  
八路軍之ヲ追撃シ又武漢中央軍夏斗寅、錢大鈞(鈞)等ハ正面  
ヨリ進ミ何總指揮ハ湘潭ニ逼リ張輝瓈(瓈)部ハ萍株ヨリ逼レ

ル爲メ張桂逆軍ハ逃ル、ニ途無ク一二週間に内ニハ消滅ス  
ヘシ

四、實業建設

廣東建設協進會ハ本週内ニ正式ニ成立スヘシ此ノ會ハ黨  
も出席との情報について

國著名ノ専門學者實業家等ニ依リ組織セラルヽモノナル  
カ右ノ外何人ト雖モ心アル實業家ハ加入スルヲ得ヘシ此  
ノ會ノ目的ハ民衆ノ資本力量ヲ以テ直接生産、事業ヲ營  
マシムルト共ニ民衆ヲシテ政府カ國家ノ資本ヲ以テ營ム  
間接生産事業例ヘハ公路水利工藝實驗等ヲ繼承セシメム  
トルニ在リ故ニ本會ハ互ニ協力シテ私人ノ資本ヲ以テ  
直接生産ヲ營マシムルト共ニ其ノ政府經營ノ間接生産ヲ  
承繼スルニ當リ種々ノ試驗手續等ヲ免レシムヘシ

本信寫送附先

在支臨時代理公使

在支公使館首席書記官

在香港總領事代理

在南京 汕頭各領事

臺灣總督

565 昭和5年7月10日 壁原外務大臣より  
在中国矢野公使館書記官宛(電報)

北方各派代表顔合せに矢野書記官など日本側

本省 7月10日後6時20分発

## 第一二七號

八日貴地發電通ハ同日懷仁堂ニ於テ山西派西山派改組派奉天派等北方各派代表ノ顔合セ行ハレ貴官大橋書記官陸海軍武官山田純三郎等日本側モ招待セラレ出席シタル旨支那側

顔振ト共ニ報シ居レリ時局柄為念  
上海、南京、奉天ニ轉電セリ

566 昭和5年7月10日 在中國矢野公使館書記官より  
幣原外務大臣宛(電報)

北平政府樹立などに關する朱外交處長とランブソン英國公使との會議について矢野書記官報告

北平 7月10日後発  
本省 7月11日前着

第五一八號

本官發上海宛電報  
公第一〇號ノ一

往電公第八號ニ關シ  
十日「ランブソン」ニ會見シ九日朱鶴翔トノ會見ノ模様ヲ

悔スヘシ若シ閻カ大局ヲ觀察シ得ル卓越セル政治家ナルニ於テハ本件制度ノ保全ニ對シテ至急適當ノ措置ヲ執ルヘキニテ此ノ際本件妥協ニ關シテ終局的ニ話合ヲ打切ルコトハ閻ニトリ不得策ノ極ミト思考ス  
<sup>(2)</sup> 本官發上海宛電報公第一〇號ノ二

三、北方側ニ於テハ「メイズ」「ベル」等ヲ信用セストナス點ニ付テハ成程閻側ニハ言分アルヘキモ「メ」等ハ南京政府ノ役人ナレハ南京ノ命ニ從ヒ仕事ヲナスコトハ當然ノコトト思ハレ假ニ閻カ將來天下ヲ取ル場合「メ」ヲ用ヒ同様ノ命令ヲ出サハ「メ」ハ今日南京ニ對スルト同様ノ態度ヲ執ルヘク旁北方ノ批評ハ「メ」「ベ」ニ對シ甚タ無理ナルモノナリ又「グリアソン」ニ至リテハ直接ニ同人ヲ知ラサルモ報告ニ依レハ尊敬スヘキ人物ノ様思ハル尤モ自分等ハ妥協案中何モ「グ」ヲ任命スヘシト云ヒ居ラサル次第ニモアリ北方ニテ之ニ拘泥ノ要ナカルヘシト思ハル(「ラ」ハ本官ニ對シ南京側力軍費調達ノ爲關係新增徵部分ヲ利用シ居ル點ハ宋子文ノ遣口ニ顧ミ恐ラク事實ナルヘシト思ハルト述ヘ居タリ)

尋ネタルニ「ラ」ハ本件ニ付テハ昨日貴官ト打合ノ趣旨ニ依リ朱ト應酬セリ先ツ朱ハ大體貴官ニ對スルト同様ノ談話ヲナシタル後山西側ハ天津稅關問題解決ヲ促進スル爲ニモ北平ニ政府ノ樹立ヲ急キ居ル次第ナリト述ヘタルニ付自分ハ

一、北平ニ政府ヲ樹立スルコトハ閻ノ個人的ノ措置ニシテ外國ニハ何等關係ナキモ實際問題トンテハ北平ニアル外交關係者ヲ甚タ困惑ノ立場ニ置クモノナルニ顧ミ我々トシテハ右樹立力餘リ急速ニ運フコトヲ欲セス忌憚ナク云ヘハ閻ハ餘リニ斯ル問題ノ解決ヲ急クモノト云フへク政府ノ樹立ノ如キ戰爭ニ勝チタル上ノコトトスル方適當ナルヘシ何レニスルモ右ハ海關問題ノ急速解決ニ何等資スル所ナキノミナラス却テ問題ヲ一層複雜ナラシムル惧アリト確信ス

二、海關問題ニ付テハ自分等力最モ適當ナリト信シ居ル妥協案ヲ閻ニ於テ容レサルハ遺憾ノ次第ナリ抑々海關ハ支那全体ニ屬スルノ機關ニテ之カ保全ハ中外ニ對シ甚タ必要ナルノミナラス今日之ヲ破壞スルカ如キ處置ニ出ツルニ於テハ將來閻カ天下ヲ取りタル場合必ス後

<sup>(3)</sup> 公第一〇號ノ三

本官發上海宛電報

尙自分ハ何レニシテモ便々ト待ツ譯ニ行カサルニ付十三日  
北戴河ニ赴キ約二ヶ月間滯在ノ希望ナルカ若シ閣ヨリ色良  
キ返事モアラハ出發ヲ延期スヘシ

ト懇々ト述ヘタル處朱ハ御希望ニ依リ閣ノ問題再考方ニ付  
良ク閣ニ申送ルヘシ併シ自分トシテハ甚タ望薄シトモ思ハ  
レ旁々貴公使ハ豫定通出發セラレ度ク若シ何等返事アラハ  
自分ヨリ北戴河ニ出向クヘント云ヘリ

自分ハ右會談及八日朱ト「タイチマン」トノ會談ヲ綜合シ  
九日夜本國政府へ委細電報スルト共ニ本件妥協斡旋ニ付テ  
ハ二回共支那側ノ容ル所トナラサリシハ極メテ遺憾ナル

カ閣カ右様ノ態度ヲ執ルニ至リシハ「シンプソン」及閣ノ  
取巻連ノ意見カ極メテ强硬ナルコトカ其ノ原因ナルヘント  
思ハルル處事態斯ノ如ク相成リタル上ハ前記ノ如ク日英公

使館ヨリ閣ニ對シ終局的ニ拒絶セス今一應考慮スルコトヲ  
勧説スル外ナキヤニ思ハル尤モ右勧説ヲ更ニ有效ナラシム  
ル爲「タイチマン」ヲ太原ニ派シテ直接閣ニ勧説セシムル

案モ考ヘラレサルニ非サルモ閣カ右ニ付耳ヲ傾クルヤ否ヤ  
ハ甚タ疑ハシキノミナラス公使館トシテ既ニ二回ニ亘リ程  
良ク撥ネ付ケラレタル上更ニ「タ」迄派遣シ拒絶セラル  
~~~~~

ニ至ラハ公使館トシテ威信ヲ失墜スルコト大ナルヘク旁々
自分トシテハ本案ニハ贊成セサル次第ナル旨電報シ置キタ
リト説明セリ

依テ本官ハ右情報ハ東京ヘモ委細報告スヘク政府ヨリ此ノ
際本官ニ於テ貴公使ト共ニ執ルヘキ措置乃至政府ノ希望ニ
付回訓アラハ成可ク貴公使出發前更ニ協議スヘント述ヘタ
ルニ「ラ」ハ若シ重大ナル事件起ラハ直ニ歸平スヘク又場
合ニ依リテハ貴官モ北戴河ヘ出掛ケラレ度今後共密接ノ關
係ヲ保ツコトト致スヘント述ヘタリ

外務大臣、天津、南京、奉天ニ轉電セリ

567 昭和5年7月(12)日 在中国矢野公使館書記官より
幣原外務大臣宛(電報)

北方各派会合に出席は招待にて何等政治的趣
旨の会談に非ざるが中國側政客の利用に嚴重
注意しあることについて

北 平

発

本 省 7月12日前着

第五二〇號

貴電第一二七號ニ關シ

當日ハ傅汝林ニ招待セラレ何氣ナク出席シタル處各派主要
人物モ列シ居リ聊カ意外ニ思ヒタルカ右ハ傅力各派要人ヲ
本官ニ紹介スルノ趣旨ニ出テタルモノニテ素ヨリ單ナル會
談ニ過ギズ何等政治的會談行ハレタル次第ニ非ス本官等ニ
於テ彼等政客ニ利用セラレサル様嚴ニ注意ヲ加ヘ居ルハ勿
論ノ儀ナリ爲念

上海、南京、奉天ニ轉電セリ

568 昭和5年8月5日 在廣東須磨總領事代理より
幣原外務大臣宛

陳濟棠による戦況報告および各機関職員に対する訓示について

（8月26日接受）
公第八三六號 昭和五年八月五日

在廣東

總領事代理 須磨 彌吉郎〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

陳濟棠ノ紀念週ニ於ケル訓示報告ノ件

570

昭和5年8月25日 在香港吉田(丹一郎)総領事代理より

幣原外務大臣宛(電報)

汪精衛派代表と張学良との会談並びに共産党

上海、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東へ轉電
セリ

青島ヨリ濟南^{（支那）}轉電ヲ請フ

方ヲ援助スル模様ナキモ新聞紙ハ國民政府ヲ敵視シ終始謠言ヲ放チ居レルカ右ハ支那ノ内亂力永久ニ續キ一切ノ建設事業力完成セサルコトヲ欲スル所以ナリ然ルニ今ヤ濟南ヲ奪回シ閻ハ失敗セルヲ以テ外人ノ支那ニ對スル觀察ト其ノ心理トハ今後方向ヲ轉換スヘク此ノ意味ニ於テ濟南奪回ハ外交上實ニ甚大ナル影響アリ云々

ノ如キ英國側ハ今猶支那側ニ回答ヲ與ヘサル處之畢竟英國代表ノ觀察力不充分ニシテ一時遁レヲナサントスルモノナリ又英國ノ新聞ハ今回ノ戰爭ニ關シ國民政府ハ當然英國人ノ生命財產保護ノ責任ヲ負フヘキモノナリト論シタル力長沙事件發生後ハ一段ト其ノ論調ヲ高メ今後支那ハ何ノ程度迄混亂スルヤ知レスト看做シ居レリ日本外交當局ハ未タ北通

要人の行動に関する情報について

香港 8月25日前發 本省 8月25日後着

第六七號

廿四日余海^{（支那）}湛（往電第五一號參照）ノ本官ニ對スル談話左ノ通

(一)北戴河ニ於ケル汪精衛ノ代表ニ對シテハ最近迄張學良ハ直接面談スルコトヲ避ケ居タルモ約二週間前汪代表郭泰祺初メテ張ト會談スルコトヲ得爾來陳公博モ時々會談シ居レリ

(一)汪一派中ニハ北軍濟南敗戦ニ關シテハ張若ハ其ノ部下力南軍ニ對シ何等格段ナル好意ヲ示シタルニ非スヤトノ疑ヲ抱ケル者相當アリ云々

尙余ハ嘗テ共産黨ニ屬シ譚平山ノ秘書タリシ者ナルカ同黨要人ノ行動ニ付左ノ通語レリ

(一)譚平山ハ約二ヶ月前上海ニ赴ケリ同人ハ共產主義ニ基ク第三黨運動ヲ起シ農民ヲ基礎トスル中華革命黨ナルモノヲ組織セルカ其ノ說ク所稍支那ノ現狀ニ適合セサル點アル爲多數黨員ヲ得ルコト難カルヘシ

569 昭和5年8月19日 在南京上村領事より 币原外務大臣宛(電報)

建設ナリ然ルニ善後ト建設ハ我等ヲシテ益々其ノ責任ノ重大ナルヲ感セシメ之ヲ完ウスル為我等ハ充分能力ヲ發揮セサルヲ得ス

三、能力ニ言及シテ遺憾ニ堪エサルハ各機關職員ニシテ賭

博青樓ニ耽溺スル者アルヲ聞クノ一事ナリ斯ノ如キ耽

溺ハ時間ヲ浪費シ公務ヲ怠リ遂ニハ官紀ヲ腐敗セシム

ヘク我等今回廣西ニ來リタルハ李宗仁、黃紹雄、白崇

禧等討伐ノ為ニシテ決シテ政權ヲ奪取セントスル目的

ニアラス梧州ハ吾党統治ニ屬スル以上黨員トシテ總理ノ主義ニ基キ努力スヘシ要スルニ賭博青樓又ハ阿片等ハ腐敗ノ毒菌ナレハ貪官汚吏ヲ養成スル主要原因タリ以后斯ノ如キ不始末発覚セラレタル場合ハ免職ヲ命スル外嚴重ナル處罰ニ處シ所轄長官ニモ亦連帶責任ヲ負ハシムヘシ

本信写送付先

在支臨時代理公使

在支公使館首席書記官

在香港總領事代理

在南京領事

中央ニ於テハ今回ノ濟南奪回ニ當リ山西軍ニ致命的打擊ヲ與ヘタルヲ以テ隴海線方面ノ西北軍モ遠カラス一掃シ得ヘク軍事ハ數旬ヲ出テスシテ了結スヘント頗ル樂觀的宣傳ヲナシ居ル處十八日孫科ハ中央黨部記念週ニ於ケル時局ニ關スル演説中濟南奪回ノ外交上ニ及ホス影響ニ付テ大要左ノ如ク述ヘ居レリ

往電第六二一號ニ關シ

第六二二號

南京 本省 8月19日後着

ついて

濟南奪回にあたつての孫科による時局演説に

(一) 鄧演達モ獨逸ヨリ歸リテ上海ニアリ目下活動シ居レリ
 (二) 榆作柏、榆作豫ハ共ニ共產主義者ナルモ作柏亡命後ノ作
 ルハ微々トシテ不振昨今鮮カラス焦リ氣味ナリ
 (三) 毛澤東ハ既ニ約一年前死亡シ其ノ軍隊ハ後繼者（確力ナ
 ル姓名ハ今記憶セス追テ報告スヘシト言ヘリ）ニ引繼キタ
 リ云々

上海ヨリ南京へ暗送アリタン

北平、上海、漢口へ轉電シ廣東、汕頭へ暗送セリ

571 昭和5年8月28日 在南京上村領事より
 幣原外務大臣宛（電報）

何應欽長沙乗込み、江西省への軍隊移動に關する陳銳談話報告

南京 8月28日後発
 本省 8月29日前着

第六四〇號

廿八日陳銳ノ時局談左ノ通り

一、長沙ハ再ヒ共匪ニ脅カサルルニ至レル處何分何健^(健)ハ自
 己^(已)ノ安全ノミヲ計リ無責任ナルニ付中央ハ廿七日何應欽ニ

セシムレハ滿足シ舊第二第三集團軍ニ對シテハ何等整理等
 ヲ加ヘス鹿鍾麟商震等ヲシテ之力維持ニ當ラシメ差支ナキ
 意向ナル模様ニシテ實現ノ可能性ナキニアラス殊ニ張學良
 モ奉天派ノ威力ヲ示シ同時ニ何等政治的利益ヲ收ムヘキ此
 ノ際和平解決ニ斡旋セントスル氣配濃厚トナリ來レルヲ以
 テ時局ハ此ノ上戰火ヲ見シテ案外急速ニ解決スルニ至ル
 ヤモ知レス云々

北平、上海、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州、
 重慶、九江ニ轉電セリ

572 昭和5年9月4日 在漢口坂根總領事より
 幣原外務大臣宛（電報）

中央軍は滬海、平漢兩線と鄭州および洛陽に
 総攻撃開始する模様並び他方長沙の現状に鑑
 み共產軍に対しても守備を整える旨報告

漢口 9月4日前發
 本省 9月5日前着

對シ之力對策方注意スルト共ニナルヘク何應欽自ラ長沙へ
 乘リ込ム様希望スル電報ヲ發セルカ武漢ノ守備モ重要ナル
 二付同人力直ニ長沙ニ赴クヤ否ヤ疑問ナリ何レニスルモ茲
 數日間何健^(健)力長沙ヲ維持スルヲ得ハ中央軍ノ増援ニ依リ長
 沙ハ救ハルヘシ

二、江西省ニハ南昌ニ第十八師吉安ニ新編第十三師ノ外贛
 州ニモ中央ノ軍隊アルモ外國居留民保護ノ關係モアリ更ニ
 第五十師譚道源ヲ九江方面ヨリ江西省内ニ移動スルコトト
 ナリ同師ハ廿七日以來津浦線ニテ當地ニ集結中ナルカ蔣介
 石ハ別ニ津浦線ヨリ二個師ヲ湖南ニ移駐セシムル考ニテ運送
 送船ノ準備方命令シ來レルモ車輛ノ配給意ノ如クナラス全
 部ノ輸送ニハ相當ノ時日ヲ要スル見込ナリ

三、贛海線方面ハ殆ト停戰シ居リ唯僅カニ中央軍ノ一部黃
 河以北ニ進ミ平漢線亦多少進擊シツツアル外何等戰局發展
 セサル處右ハ最近各方面ニ於ケル和平運動漸次擡頭シ李石
 曾等中央要人間ニモ此ノ機會ニ和平解決方主張スルモノア
 リ目下蔣介石ハ北軍將領ニ對シ中央歸順方勸告中（往電第
 六三一號參照）ニテ其ノ成行ヲ見極メントスルモノナリ和
 平解決ノ條件トシテハ蔣介石ハ單ニ閩馮ノ下野外遊ヲ實行

時局ニ關シ中央軍ハ隴海、平漢兩線ト鄭州及洛陽ノ總攻擊

第四一四號

573 昭和5年9月11日 在青島川越總領事より
 幣原外務大臣宛（電報）

宋財政部長の赴済は膠濟鐵道の実權東北側への付与に反対する韓復榘の説得にありとの情

報について

青島 9月11日後発

本省 9月11日後着

第三七五號（極秘）

宋子文ノ赴濟用務ニ付阪西中將力當地有力ナル支那人ヨリ極秘聞込トシテ本官ニ語ル處ニ依レハ中央政府ハ曩ニ青島ヲ奉天側ニ與ヘタルカ今回更ニ膠濟鐵道ニ對スル實權ヲモ奉天側ニ與ヘムトスル意図ヲ有シ居ル處ニ之ニ對シ韓復榘ハ絕對反対ヲ稱ヘ居ルニ付韓ヲ宥ムル爲宋子文ヲ派遣スルニ至レモノナル趣ナリ

右聞込ノ儘何等御参考迄

上海、南京、北平、奉天、濟南へ轉電セリ

574 昭和5年9月12日 在中國矢野公使館書記官より
幣原外務大臣宛（電報）

北方政府を事實上の政府として認め地方的問題につき交渉を行うとのエブリング書記官の意見について

北平政府ニ對スル英國側ノ態度ニ關シ十一日「エブリング」力個人ノ意見トシテ館員ニ語ル處左ノ通
新政府ノ外交部長決定ノ上正式ニ政府成立ヲ通告シ來レル場合ハ昭和二年武漢政府時代ニ於ケル前例ニ照シ豫メ南京側ニ通告ノ上北方政府ヲ「デ、ファクト」政府ト認メ地方問題ニ關シ之ト交渉スルコト然ルヘキヤニ思考セラル自分ハ現ニ過般「ランプソン」公使南下ノ際朱鶴翔ヨリ其ノ使命ニ就キ問合セ來リタルニ付率直ニ「ラ」公使ハ主トシテ威海衛還付、團匪賠償金及治外法權問題等ニ付交渉スヘク團匪賠償金ニ關シテハ今回恐ラク調印ノ運ニ至ルヘキモ之力批准ニハ相當ノ日子ヲ要スヘク且批准ノ上ニ於テモ現金ニテ南京側ニ渡スコトナク主トシテ鐵道材料ノ形ニ於テ引渡ス筈ナルニ付右資金カ南方ノ爲軍費ニ利用サルルカ如キコトナルヘシト述ヘ置キタリ又北方政府ハ其ノ成立ト共ニ鹽稅及關稅ニ關スル機關ヲ設置シ「シンプソン」ヲ I.G.ニ任

命スルカ如キコトアルヘキ處鹽稅制度ニ關シテハ北方政府ノ措置ニ依リ現在ノ制度ハ形式上破壞サルルコトアルモ右現在ノ制度ハ列國ノ認メタルモノニ非サルノミナラス今日ニ於テモ各地方軍閥ハ「クオウター」ヲ送金セス既ニ事實上破壞サレタルト同様ナルヲ以テ新政府カ今後之ヲ如何ニスルモ列國トシテハ多ク關知スル處ニアラサルヘシ將又關稅ニ付テハ閻カ今回當地方大學ノ經費トシテ三十五萬元ヲ上海ニ送ルヘキ正稅ヨリ差引クヘキ旨ノ命令ヲ出シタル趣ニテ甚タ困リタル事態ナルモ右金額ハ團匪賠償金露西亞分割當ノ分ニ止マルヲ以テ之ヲ實トシテ南方カ外債償還ヲ拒ムコトハナカルヘント信ス更ニ正稅以外ノ剩餘金ハ北方ニ於テ自由ニ使用スヘキモ右ハ支那内部ノコトニテ外國トシテ如何トモ爲シ難キ處ナルヘシ云々

上海、南京、奉天、天津へ轉電セリ

北平 9月12日前着
本省 9月12日前着

第六七三號

750

付記 九月十六日付
「北方政府樹立ニ對スル我方態度ニ關スル件」

北平 本省 9月12日後着

第六七五號

最近北方時局ノ變動ニ伴ヒ殊ニ閻錫山主席就任ヲ見ルニ至リタル爲英米側初メ佛白等ニ至ル迄頻リニ北方側ト接觸シ將來ノ地歩ヲ獲得スヘク努力シ居ル模様ナルカ我方トシテモ此ノ際北方側諸方面ト非公式乍ラ密接ノ聯絡ヲ持續シ置クコト緊要ト思考シ出來得ル限り努力シ居ルカ何分當館宴會費機密費ノ範圍ニテハ到底右ニ要スル經費捻出ノ餘裕ナク就テハ今般順天時報及「スタンダード」ノ整理ニ依リテ得タル本省ヘノ返納金銀二萬一千九百餘元（別途報告中）ヨリ少クトモ五千元ヲ當館機密費或ハ宴會費目ニ振リ宛テ方特ニ御詮議ノ上何分ノ儀御同示相成度シ

575 昭和5年9月12日

在中國矢野公使館書記官より
幣原外務大臣宛（電報）

閻錫山主席就任に伴う北方側との連絡経費捻出につき請訓

（付記）
北方政府樹立ニ對スル我方態度ニ關スル件

一、今次反蔣各派ニ依リ北平ニ樹立セラレツツアル政府ハ

最近略々其ノ外形ヲ整ヘタルヲ以テ近ク同政府ヨリ我方其他列國ニ對シ正式ニ其成立ヲ通告シ若ハ承認ヲ求メ來ルコトナキヲ保セス在北平英國公使館方面ニハ右様場合英國ト

シテハ昭和二年武漢政府時代ニ於ケル前例ニ照シ豫メ南京側ニ通告ノ上北方政府ヲ「デ、ファクト」政府ト認メ地方問題ニ關シ之ト交渉スルハ勿論南京ニ於ケル交渉ノ概要ヲ時々之ニ通告スルコト可然トノ見解アルカ如シ

二、然ルニ右新政府ヲ昭和二年當時ノ武漢政府乃至南京政府ニ對比スルニ(1)當時ノ北伐軍ハ國民革命ノ旗幟ヲ掲ケテ廣東ヨリ進出セル以來半歲餘ニシテ江南一帶ヲ席捲シ引續キ北方ノ諸友軍ト呼應シテ北平ニ進撃シ當時ノ北京政府ハ明ニ大勢ヲ失ヒタル状況ナリシニ反シ今次北方軍ハ去ル五月開戦以來一進一退今日モ守勢ヲ取り漸ク舊地盤ヲ保持シ居ルニ過キス蔣介石ニ於テ人心ヲ失墜シ居レル點ハ認ムヘキモサリトテ北方カ南方ニ歡迎セラレ居ル點ナク兩者ハ氣勢ニ於テ多大ノ徑庭アルノミナラス(2)其ノ勢力範圍モ當時北伐軍カ長江筋及江南一帶ヲ占有セルニ反シ北方側ハ平津地方ヲ除キテハ對外關係上差シテ重要ナラサル山西陝西甘

肅等ノ數省ヲ支配シ得ルニ過キス
加之時局ニ重大ナル關係ヲ有スル東三省ノ態度ハ依然トシテ中立ニシテ北方側ハ過般濟南方面ノ敗北ニ因リ大打撃ヲ蒙ムリ今次政府樹立ヲ促進セルモ畢竟右失敗ヲ償フ爲何等推測セラルルノミナラス最近戰機重要ヲ告クルニ至レル河南方面ノ勝敗如何ニ依リテハ新政府ノ前途樂觀ヲ許サヘルモノアリ

三、尤モ平津地方ニ於テモ相當ノ重大關係ヲ有スル我方トシテハ此ノ際同地方ノ實權者タル北方側ニ對シ不必要ニ冷淡ナル態度ヲ取ルハ不得策ナルノミナラス地方的事項ニ關シテハ從來同様新政府トモ交渉スルノ外ナカルヘシト雖一步ヲ進メテ北方政府ニ事實上ノ承認ヲ與ヘ若クハ南方トノ交渉状況ヲ北方政府ニ通告スルカ如キハ同政府ノ現狀ヲ以テシテハ何等其必要ヲ認メ難キノミナラス却テ事態ヲ紛更セシムルノ弊ニ陷ルモノト思考セラル

四、要スルニ我方トシテハ今後政局ノ變化ニ依リ北方政府ノ基礎一段鞏固有力ヲ加フルニ至レル場合ハ別トシ今次同政府カ其ノ外形ヲ整ヘタル一事ヲ以テ直チニ北方側ニ對ス

ル我方從來ノ態度ヲ變更スルノ必要ヲ認メ難キ次第ナリ

(昭和五年九月十六日)

報ヲ請フ

北平、奉天へ轉電シ、南京ニ暗送セリ

576 昭和5年9月13日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

我が方の山西側援助説に關し事實通報方要請

上海 発

本省 9月13日後着

公第八九二號

十二日佐藤武官ハ影佐少佐(山西鄭州方面ノ研究員ニシテ

最近鄭州ニ三ヶ月程滯在ノ後當地方ニ轉勤シ來リタルモノ)

ノ報告ニ依レハ元奉天顧問岸^岸豫備中將ハ馮側ノ希望ニテ約

一ヶ月前鄭州ニ來リ一週間程滯在シタル處其ノ際馮ヨリ軍

事顧問ニ就任方ヲ求メラレタルモ斷ハレル趣ナル旨語レリ

然ルニ近來當地方ニ於テハ日本ハ馮玉祥若ハ山西側ニ對シ

或ハ顧問ヲ派シ又ハ其ノ他ノ援助ヲナシツツアル旨ノ報道

アリ王正廷等モ本官ニ對シ屢々質問等アリ其ノ都度本官ヨ

リ否定シ置キタルカ右ハ之等ノ事實カ誇大ニ報道セラレタ

ルモノト想像セラル處今後此ノ種ノ事實アラハ隨時御通

577 昭和5年9月23日 在奉天森島總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

張學良の閨内出兵に至る経緯並びに真相など

に関する劉光の内話につき報告

奉天 発

本省 9月23日前着

第四四五號

劉光廿二日當館ヲ來訪シ東北出兵ニ至ル經緯並真相等ニ關シ左ノ通内話セリ

學良ハ去ル十五日南方援助ノ爲ニ關内出兵ヲ決心シ十五

六、七ノ三日ニ亘リ張作相、湯玉麟、萬福麟、張煥相、張

景惠及政務委員全部ヲ集メ本件ヲ討議シタル處軍人側ハ萬

福麟力河北省主席ノ條件付ニテ贊意ヲ表シ作相力多少ノ意

見ヲ述ヘタル外他ハ全部無條件ニテ贊成シタルモ文官側ハ

袁金鑑最モ强硬ニ反對シ臧式毅モ相當有力ナル異論ヲ唱ヘ

劉哲最モ熱心ニ贊成シタル外ハ別段ノ意見ヲ述ヘタル者無

ク又最初通電ニハ「靜ニ中央ノ措置ヲ待ツ」ノ字句ヲ缺除シ居タルモ李石曾ノ要求ニ依リ發電前之ヲ追加シタル次第

ナリ學良ノ通電並ニ出兵ニ對シ蔣介石ヨリ既ニ張群ヲ通シ

感謝ノ電報到着セルト同時ニ出兵ニ對シ南方側ヨリ不取敢

五百萬元ヲ補助スルコトトナリ内一部ハ既ニ送金シ來レリ

學良ハ向フ十日位ノ内ニ北平ニ赴キ陸海空軍副司令ニ就任

ノ豫定ニテ其ノ際ハ張群モ同行スヘク王樹常ハ河北省主席

ニ于學忠ハ平津警備總司令ニ任命セラル豫定ニテ（尤モ

于學忠ハ變更サルルヤモ知レス）天津海關ハ不取敢學良ニ

於テ引繼キヲ爲シ追テ中央ニ引繼クヘク天津ニ於ケル地方

要官ハ學良ノ推薦ニ依リ中央ヨリ任命スル手筈ナリ

南京政府ニ於テ學良ノ通電ニ關シ眞意ヲ疑フ者アル模様ナ

ル處右ハ事情ヲ知ラサル爲ニシテ蔣介石學良間ニハ十五日

以來頻々電報ノ往復ニ依リ何等ノ誤解ナシ云々

往電第四四一號ノ通轉電セリ

578 昭和5年9月23日 在奉天森島總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

東北軍による京津方面接收情況に關し榮臻軍

第二段ノ宣言ヲ發スルニ至ルヤモ計リ難ク尤出兵勿々ノ際ニテ何等一定ノ腹案アル譯ニアラス又天津海關接收問題ノ如キモ何レ中央ト協議ノ上決定スヘキモ何分軍事多忙ノ際トテ右ハ北平占領後ノ考量ニ俟ツコトナルヘシト語レル由

北平、天津、上海、南京へ轉電セリ

579 昭和5年9月30日 在芝罘内田領事より
幣原外務大臣宛（電報）

劉珍年と東北側との提携成立との観測について

芝 罂 発
本 省 9月30日後着

第九二號 新任芝罘市長何益三（元劉珍年軍第二十一師副師長）ノ談

ニ依レハ威海衛港灣及「ポート エドワード」市街ハ東北海軍根據地トシテ奉天側ニ與ヘ夫レ以外ノ附近陸地ハ劉珍

年ニ與フル事ニ決定セル旨廿四日蔣介石秘書邵力子ヨリ劉

珍年ニ私電通報アリタル由ナルカ劉ハ廿一日附ヲ以テ張學良ノ和平通電ニ共鳴ノ通電ヲ發シ張學良總司令ニ追從シテ

事庁長の談話につき報告

奉 天 発
本 省 9月23日後着

第四四七號

北平發本官宛電報第一九號及天津發本官宛電報第一九號ニ關シ

二十三日森岡ヲ軍事廳長榮臻ノ許ニ遣ハシ居留民保護方ニ關シ申入ヲ爲サンメタル處榮ハ今回ノ出兵ハ疾風迅雷的ニシテ閻錫山ハ勿論在奉山西代表傅作義スラ寢耳ニ水ノ感ヲ抱キタルモノノ如ク（山西側カ東北出兵ニ關シ豫メ諒解ヲス）從テ京津方面ノ接收ニ關シテハ特ニ最善ノ注意ヲ拂フ

ヘク出先當局ニ訓令シ現ニ天津ニ於テモ山西軍大部隊撤退シ一部殘留治安ヲ維持セシメタル後接收ヲ行ヒ北平ニ於テモ同様平穩裡ニ接收ヲ爲スヘク目下出先官憲ニ於テ交渉中ナルヲ以テ外國人生命財產ニ關シテハ絕對御懸念ノ要ナシト語リタル趣ナリ 尚榮ハ餘談トシテ學良副司令就任ノ件ハ未定ナルカ今後馮閻兩人ノ態度如何ヲ見居ケタル上奉天側ハ國民會議開催等問題モ中央側ト諒解成リシモノノ如シ 上海、青島、濟南、北平、天津、奉天へ轉電セリ

580 昭和5年10月2日 在天津岡本總領事より
幣原外務大臣宛

東北側の天津国民党部に対する態度について
機密第七八一號 昭和五年十月二日
(10月7日接受)

在天津
總領事 岡本 武三〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

奉天側ノ黨部ニ對スル態度ニ關スル件

當地ニ潛伏中ノ蔣派黨部委員劉不同等ハ九月二十一日山西軍京津地方ヲ撤退シ奉天軍入關スルニ至リタルハ奉天側ノ中央擁護ノ實現ナリトシ大イニ力ヲ得各所ニ潛在中ノ黨員モ續々英租界ノ本部ニ集合シ活動ノ準備ヲ整ヘ本年三月以來閉鎖セラレタル天津特別市黨部ヲ九月二十一日強制接收

シ直ニ宣傳工作ニ移リ市内各所ニ反閻馮擁張ノ各種傳單ヲ

散布シ且此種ボスターヲ要所ニ掲示シタルカ間モナク公安
局員ノ爲メ撤去セラレ且傳單散布者ノ一部十數名ハ逮捕セ
ラレ一方市黨部ハ黨員身邊保護ノ名目ヲ以テ保安隊約七十

名ノ包囲スル處トナリタルヲ以テ工作ノ繼續不可能トナリ

劉不同以下黨員ハ奉天側ノ處置ニ疑問ヲ懷クニ至リ内情ヲ
調査シタルニ右ハ當時天津ニアリン東北第五旅長董英斌ノ
諒解ノ下ニ實行セラレタルモノナルコト判明シタルヲ以テ
愈々奉天側ノ態度ニ不安ヲ感シ翌二十二日黨員一同ハ逃ク
ルカ如ク市黨部ヲ引拂ヒ佛租界ニ立籠レリ尙其後ニ於ケル
奉天側ノ態度ハ依然黨部壓迫ニテ其ノ大要ヲ列記セハ左ノ
通リナリ

一、九月二十五日東北邊防軍司令長官張學良ハ在北平東北
代表危道豐宛奉軍入城後ハ黨部ノ活動ヲ停止シ併セテ
學生ノ校外運動ヲ禁止スヘキ旨命令シタリ

二、北平ニ於テモ天津同様本年三月以降閉鎖セラレタル北
平特別市黨部ニ「中國國民黨北平特別市黨務指導委員
會」ノ貼札ヲ爲シ市内ニ反閻馮汪擁張ノ傳單標語等ヲ
散布シタルモ之亦公安局ノ爲メニ撤去セラレ市黨部ハ

二十四日再ヒ閉鎖セラレタリ

三、九月二十五日夜北甯鐵路局長高紀毅第二軍長干學忠等
東北要人ノ在津山西要人招宴席上ニ於テ千學忠ハ黨務
問題ニ關シ「張學良ノ命令アルニ非サレハ黨部及其興

動ヲ許サス」ト語リタル事實アリ

以上ノ狀況ニシテ在津蔣派黨部員等ハ南京政府ヨリノ命令
モアリ奉天軍ノ入關ヲ機會ニ大活動ヲ爲ス計畫ニテ夫々部
署ニ就キタルカ奉天側ノ態度ハ之ヲ援助セサルノミナラス
却テ彈壓ヲ加フル如キ傾向アリ且黨部問題ノミナラス南方
支持ヲ仄カシ入關セル奉天側ノ態度カ頗ル曖昧トナリ或ハ
北方ニ好意ヲ有スルニ非スヤトノ風説サヘ生スルニ至リタ
ルヲ以テ奉天側ノ眞意ヲ確カムヘク劉不同、東頌聲兩名ハ
九月二十五日東站發列車ニテ張學良ニ會見ノ爲メ赴奉シタ
ルカ其結果如何ハ多大ノ興味ヲ以テ見ラレツツアリ

右報告ス

本公司信寫送附先 在支公使 北平公使館首席

上海、南京、青島、廣東各館長

~~~~~

581 昭和5年10月(14)日

在上海重光總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

### 蒋介石が全國民および各新聞社に対し五項目 の重要な政見を通電した趣について

上海市 10月14日前着 発  
本省

蒋介石ハ十日附ヲ以テ全國民及各新聞社ニ對シ五項ヨリ成

ル重要政見ヲ掲ケタル通電ヲ發シタル趣ナリ要旨左ノ通

全國民過去ノ艱難ヲ思ヒテ感慨奮起ノ秋中正師ヲ前線ニ督

シ今ヤ軍事漸ク終熄ニ向ヒ和平統一ノ光明再ヒ見ルヲ得ヘ

シ軍ヲ起シテ以來前線ノ將士ハ勞苦犧牲ヲ嘗メ全國ノ民衆

ハ逆軍ノ蹂躪匪賊共匪ノ慘害ニ苦シミ農商各業停頓シテ國家

ノ損失大ナルモノアリ之ヲ以テ戰亂終熄ノ後ハ全國人民

須ク一致努力シテ國家ノ統一ヲ鞏固ニシテ政府ハ討逆勝利ノ

後極力政治ノ刷新ヲ計ルコト舉國一致熱望スル所ナリ中正

久シク前線ニ在リテ我力父老兄弟ノ意見ヲ承ルヲ得サリシ

モ心密カニ確信スル所ハ今次ノ戰爭ハ國家統一ヲ確立スル  
最後ノ一戰ニシテ此ノ勝利ヲ永久ニ保障スル所以ハ更ニ興

(一)治安維持ノ爲匪賊共匪ノ勦滅ヲ計ルニアリ右ニ關シテハ  
余ハ今後責任ヲ以テ積極實行ヲ籌策スヘキモ一面區域ヲ  
確定シテ各區夫々其ノ責ヲ負ヒ或ハ共同討伐ノ計畫ヲ設  
定シテ根本的討伐ヲ實行シ又今後三ヶ月乃至六ヶ月ヲ期  
シテ一律肅清ヲ言明シ或ハ保甲制度ヲ勵行シテ戸口調查  
ヲ實行シテ匪徒ヲシテ遁竄ノ餘地ナカラシム等積極的實  
行ヲ期セムトス

(二)財政整理ノ爲豫算ヲ確立シ會計審計ノ制度ヲ勵行シ國家  
及地方ノ收支ヲ公開シ幣制ヲ統一シ金融ノ紊亂ヲ救ヒ釐  
金ヲ裁撤スル等最短期間内ニ實行ヲ計ラムトス

(三)今日吏治ノ弊害ハ因循暮效貪汚未除ニアリ自今行政系統  
ヲ改善シテ政治ノ責任ヲ確定シ又各機關ノ權限ト程序ヲ  
區別シ更ニ監察制度ヲ實行シテ綱紀ヲ肅正スル等吏治ノ

肅正ヲ計ルヘン

(四)經濟發展ノ爲總理ノ建國方略ノ示ス處ニ依リ平等互惠ノ  
原則ニ基キ外資ヲ吸收シテ產業ヲ開發スヘシ但シ其ノ用  
途ハ交通ノ發展水利ノ整理開拓農工ノ開發等各種基本興



關東州駐在海軍武官殿

満鐵資料課長殿

在京支各事務官殿

在京關東長官殿

管下各警察官署長殿（除奉天兩署）

張學良ノ副司令就任通電

張學良ハ本月九日陸海空軍副司令ニ就任シタルヲ以テ十日附中央政府及各省軍政機關ニ對シ左記譯文ノ如キ挨拶通電ヲ發シタリ

記

六月廿一日國民政府ノ命ヲ奉スルニ學良ヲ陸海空軍副司令ニ特任セラル此ノ命ヲ拜シ恐懼ニ勝ヘス學良ハ猥リニ淺才ヲ以テ纔力ニ壯年ニ及ヒ學殖疏淺ニシテ且ツ閱歷ノ未タ宏カラサルヲ愧ツルニ前ニ重任ヲ蒙リテ邊防ノ責ヲ擔フ勉メテ駕馬ニ鞭打ツモ尙ホ憮ルコト薄氷ヲ踏ムカ如シ況ノヤ此ノ最高ノ軍職ヲヤ夫レ豈微力能ク其任ニ堪ユル所ナランヤ故ニ屢々誠意ヲ披瀝シ命令ノ撤回ヲ要請シタルモ未タ允許ヲ蒙ラス殊ニ海内ノ長老諸賢ヨリハ紛々トシテ來電シ責ムルニ避ケ難キ所ヲ以テ斯誠ニ吾ヲ愛スル者ハ深ク其ノ菲才

「反中央政權ニ對スル態度」

北平

發

本省 11月6日前着

第七八四號（極秘）

朱鶴翔ハ閻錫山ノ命ヲ含ミ數日前私力ニ來平シ三日本官ヲ來訪シ閻ノ依頼ニ基ク趣ヲ以テ左ノ通申入レタリ  
一、太原ニ於テハ擴大會議モ約法ノ制定ト共ニ一段落ヲ告ケタルヲ以テ愈解散ニ決シ汪精衛モ此ノ機會ニ一旦太原ヲ離レ一先天津ニ落付キタル上更ニ日本ニ赴キ度キ希望ナル處同人ハ其ノ數次ノ聲明ニテ明カナル通過激派ニハ強ク反對シ居ルノミナラス其ノ抱懷スル大亞細亞主義ノ見地ヨリ日本ニ對シテハ好感ヲ有スルコトハ御承知ノ通ニシテ且ツ過般香港ヨリ來平ノ節日本ニテ種々歡待ヲ受ケタル事實ニモ鑑ミ今回赴日スルトシテモ日本側ニテ何等異議等ナカルヘシト確信スルモ只懸念サルルハ同人ノ太原天津間ノ旅行ニテ目下奉天側トハ良好關係ニアリトハ云ヘ南方派刺客モ多數入り込ミ居ル模様ニ付途中不測ノ禍ナシトモ保シ難キヲ以テ同人ヲ飛行機ニテ天津迄送リ度キ意向ナルカ天津着陸ノ際ニ於ケル保護及着陸場等

三、張蔣ノ關係ハ張力平津出兵ニ際シ南方ヨリ現金二千五百萬弗ト黃河以北ノ支配權トヲ與ヘラルル約束ナリシカ其ノ後南京ヨリハ五百萬弗送リ來リタルノミニテ殘餘ヲ

ヲ知リ必スヤ固辭セント欲スルヲ知ル然レトモ之多大ノ期

望ニ背ク惟フニ鼎ヲ舉ントセハ須ク已ノ力ヲ量ラサルヘカラス奪ソ餌ヲ覆シテ（任ニ勝エス失敗シテ）羞ヲ遺スヘケン哉故ニ熟慮是ヲ却ケテ敢テ進マサルモノハ學良個人ヲ惜ムニ非ス黨國ノ爲メ敢テ慎重タラサルヲ得サルナリ頃者巧

電（十八日附電）ヲ以テ和平促進ノ主張ヲ表示シタル處猥リニ當世ノ譏リヲ蒙ラサルノミナラス反ソテ愈々益々就職ヲ迫リ些カモ遲延ヲ許サス之レ本日瀋陽ニ於テ就職宣誓シ謹シテ總司令ノ命ニ從ヒ黨國ノ爲メ勞ニ服ス所以ナリ中央

ニ報告スルト共ニ謹シテ電達ス冀クハ余ノ愚誠ヲ賢察セラレ督教アランコトヲ

張學良 佳（十日）

584 昭和5年11月(6日) 在中國矢野公使館參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）

太原拡大會議の解散、汪精衛の赴日援助および閻・馮と奉天側との合作促進などについて  
の閣の要請朱より申込みについて

付 記 十二月付東亜一課議会調書原稿

支拂ハス更ニ南京政府ハ依然一黨治國ノ主張ヲ改メサルノミナラス張力囊ニ國民會議開催ニ關シ第二次通電案ヲ蔣ノ許ニ差出シタルニ蔣ハ默ツテ其ノ内容ヲ其ノ儘取容レ自己ノ名義ヲ以テ第四次全國代表大會召集ノ通電ヲ發出セル爲張ハ蔣ニ對シ快カラス思ヒ居ル模様ニテ張蔣ノ關係ハ漸次圓滑ヲ缺クニ至ル様見受ケラル

四、現在張自身ノ立場ハ甚タ困難ナルモノノ如ク自身ノ主張ニ基キ黃河以北ヲ領有センカ爲ニハ更ニ數次ノ出兵ノ必要アリ而モ膝下ノ不平分子力之ヲ機トシテ事ヲ構フルノ虞ナキニ非サルニ付張トシテハ此ノ際山西西北兩軍ト聯絡ヲ保チテ實力ヲ維持シツツ其ノ利用ヲ計ルヨリ外途ナキ次第ニ要スルニ張ハ目下進退ノ判断ニ大イニ迷ヒ居ル模様ナリ

閻馮トノ聯絡協調ニ關シテハ從來日本側力北方派ニ對シテ執り來レル方針ニ鑑ミ張ハ同人力日本ニ最關係深キ東三省ノ實力者タル立場上日本側ノ意図ヲ憚リ居ル様見受ケラレサルニ非ス就テハ此ノ際若シ日本側ヨリ如何ナル非公式ノ方法ニテモ宜シキニ付（例へハ張ノ日本人顧問ノロヲ通スル形式ヲ以テ）日本ハ必スシモ閻馮反對ノ方若シ多少トモ援助アラハ北（方）カ勢力恢復ノ際ハ支那ノ經濟開發上特ニ日本ニ優先權ヲ與フルコトト致度キ所存ナリ尙又日本ノ援助ト言フモ何等ノ實質的援助ヲ意味セス單ニ張ニ對シ日本ハ必スシモ南京援助ノ建前ヲ執レルモノニ非サル旨ノ「モーラルサポート」ヲ與ヘ下サレハ可ナリ都合ニ依リテハ自分ハ近々奉天ニ赴クヘキニ付其ノ際奉天官憲ニ對シ宜敷御口添ヲ得タシ云々

五、今回北方側ノ敗北シタルハ一二日本カ北方側ニ援助ヲ拒ミタルニ基因スルモ他方米國カ武器ヲ始メ飛行機迄モ供給シテ大ニ南方ヲ援助セルモ一大原因ヲナセリ從テ南京ノ勢力アル間ハ益々支那ニ米國勢力侵入ノ結果ヲ生スヘキニ付滿洲及北支那ニ特殊ノ利害ヲ持ツ日本トシテハ之ニ呼應スヘク從テ從來ヨリ大規模ノ反蔣運動ヲ興スヲ得ヘシ

要スルニ朱鶴翔談話ノ要點ハ汪ノ天津行ノ際日本側ヨリ保護ヲ與ヘラレタキコト及奉天側トノ合作ニ付張學良ノ決意促進上日本側ヲ利用セントスルノ二點ニアリ第一ノ點ニ關シテハ本官ハ飛行機ニテ日本租界又ハ兵營等ニ着陸スルカ如キハ甚タ目立ツノミナラス日本側ニハ其ノ準備ナキニ付右様ノコトハ取計ヒ難キニ付其ノ他ノ適當ナル方法ヲ考慮セラレテハ如何ト答へ第二ノ點ニ付テハ日本ハ支那ノ内政ニ付テハ絶対不干涉主義ヲ執リ居リ從テ日本側ヨリ斯ル問題ニ付何等關與スルコト不可能ナル旨然ルヘク應酬シ置ケリ

上海、南京、奉天へ轉電シ廣東、香港、青島、濟南、漢口、天津へ暗送セリ

## (付記)

一、閻錫山側地方實權ニ對スル態度

昭和五年四月一日閻錫山反中央各派ニ推サレテ太原ニ於テ北方側中華民國陸海空軍總司令ニ就任スルヤ平津衛戌總司令部參議朱鶴翔ヲ右陸海空軍總司令部外交處處長ニ

任命シ囊ニ接收シタル在北平外交檔案保管處ニ外交處ヲ設置セシメタルカ四月三日朱ハ我方公使館矢野書記官ヲ來訪閻ノ訓令ニ基ク趣ヲ以テ右就任ノ次第ヲ通報スルト共ニ閻ヨリ外交團ニ對シ列國居留民ノ保護ヲ聲明スルト共ニ列國力敵方ニ對シ援助ヲ與ヘ禍亂ヲ延長セシムル如キコトナカラソコトヲ希望セル申入ヲ傳達スル所アリタリ

右外交處設置ニ對シ列國側ニ於テハ首席公使初メ大体何等處置ヲ執ルノ必要ナシトノ意見ニテ外交團會議ヲ開催シ之カ對策ヲ攻究スル等ノ運ヒニ至ラス一方北方政權下ニ發生セル交渉案件ニ關シテハ

(1)英國公使館側ニ於テハ是等地方的問題ニ付閻錫山側ニ相手方トシ必要ニ應シ公文ヲモ發送シ又直接閻錫山ニモ電報シ居リ更ニ場合ニ依リテハ同時ニ南京政府ニ形式的申入ヲ爲シ居レルカ斯種地方的事件ニ付實際ノ必要ニ應シ地方實權者ト接觸交渉スルノ外ナキハ南京政府ト雖モ良ク諒解シ居ル處ニテ之力爲メ北方政府承認ノ如キ疑モ生スルコトナカルヘシトシ

(2)米國公使館側ニ於テハ已ムヲ得サル場合ニハ形式及字

句ニ注意シ北方側官憲ト交渉スヘク若シ北方側新官名ヲ附シテ正式文書ヲ發送スル必要アル如キ重大事件發生ノ場合ニハ一應國務省ニ請訓スヘントシ  
(イ)佛國公使館側ニ於テハ必要ヲ生スレハ躊躇ナク閻又ハ朱宛正式公文ヲ送付スヘク南京政府ト交渉ノ爲發送スル公文モ場合ニ依リ其ノ寫ヲ北方側ニモ送付スルコトアルヘントシタルカ

我方ニ於テハ閻ノ地方的實權殊ニ其ノ外交處トノ交渉ハ南京政府トノ關係上機微ノ考慮ヲ要スル點ハアルモ元來地方的案件ハ或程度迄地方當局ヲ相手シテ交渉又ハ解決スルコト從來一般ニ行ハレツツアル所ニシテ此ノ點ハ閻トノ折衝ニ於テモ他地方ニ於ケル場合ト區別スルノ要ナキモノトスル方針ニテ其旨四月二十三日政府ヨリ在北平矢野書記官ニ電訓スル所アリ旁々北平公使館ニ於テハ前記列國公使館側ノ態度ヲ參酌シ必要ノ際ニハ非公式ニ北方官憲ト折衝シ文書ヲ以テ交渉ノ必要アルトキハ官名等ニ注意シ成ル可ク覺書等ノ形式ヲ用フルコトシタリ

## 二、北方政府樹立ニ對スル態度

南方面ノ勝敗如何ニ依リテハ新政府ノ前途ハ甚々不安ナルモノアリト認メタルヲ以テ我方トシテ平津地方ニモ相當重大ナル關係ヲ有スル以上此際同地方ノ實權者ナル北方側ニ對シ不必要ニ冷淡ナル態度ヲ取ルハ不得策ナルノミナラス地方的事項ニ關シテハ從來同様新政府ト交渉スルノ外ナカルヘント雖モ一步ヲ進メテ北方政府ニ事實上ノ承認ヲ與ヘ若クハ南方トノ交渉狀況ヲ之ニ通告スル如キハ啻ニ其ノ必要ヲ認メ難キノミナラス却テ事態ヲ紛更セシムル弊ニ陥ルモノトシ今後北方政府ノ基礎一段鞏固有力ヲ加フルニ至レル場合ハ兎モ角單ニ同政府力其ノ外形ヲ整ヘタル一事ヲ以テ直チニ之ニ對スル從來ノ態度ヲ變更スルノ必要ナシトノ意向ナリシカ(九月中旬)爾後反中央派ノ形勢漸次非ニシテ同政府ハ列國ニ對シ其ノ成立ヲ正式通告シ又ハ承認ヲ求ムルニ至ラスシテ瓦解シタリ

(欄外記入)

昭和五年十二月 東亞一課議會調書原稿

其後九月上旬ニ至リ反中央各派ハ豫テ計畫ノ北平政府樹立ヲ促進シ政府組織大綱ヲ制定スルト共ニ政府主席閻錫山以下政府委員ノ顔觸ヲ決定シ閻ハ同月九日就任式ヲ舉クル等相當政府トシテノ外形ヲ整ヘタルカ右ニ關聯シ同月十一日在北平英國公使館「エブリング」書記官ハ個人ノ意見トシテ我方館員ニ對シ今後新政府ノ外交部長決定ノ上正式ニ政府成立ヲ通告シ來ル場合ニハ昭和二年武漢政府時代ニ於ケル前例ニ照シ豫メ南京側ニ通告ノ上北方政府ヲ「デ、ファクト」政府ト認メ地方問題ニ關シ之ト交渉スルハ勿論南京ニ於ケル交渉ノ概要モ時々報告スルコト然ルヘント思考シ居ル旨ヲ述ヘタリ

然ルニ我方ニ於テハ(イ)右北方政府ヲ昭和二年當時ノ武漢政府乃至南京政府ニ對比スルニ兩者其ノ進出的氣勢並勢力範圍ニ於テ多大ノ徑庭アルノミナラス(ロ)中央側ハ八月中濟南方面ノ敗北ニ因リ大打擊ヲ蒙リ政府樹立ヲ促進セルモ右失敗ヲ償フ爲何等カ陳容<sup>(隠)</sup>ヲ整フルノ必要ニ迫ラレタルコト主因ナルヤニ推測セラレタルノミナラス時局ニ重大ナル關係アル東三省側ハ反中央側必死ノ勸請ニ拘ラス依然トシテ中立ノ態度ヲ變ヘス旁々當時戰機迫レル河

585 昭和5年11月6日 在濟南西田總領事より

幣原外務大臣宛(電報)

一、閻・馮の下野外遊など善後措置に關する陳市長の内話について

濟 南 11月6日後発 本 省 11月7日前着

第六七九號 往電第六七八號ニ關シ

本六日陳市長本官ヘノ内話ニ依レハ

一、胡青島市長カ四日當地經由北上ノ際ノ談ニ依レハ蔣張會見ノ日取りハ出來得ル限り早目ニ定メ本月十二日以前青島ニテ行フ事ニ内定セリトノ事ナリシカ目下ノ處尙不明ナリ

二、閻馮ノ下野外遊ニ關シテハ閻ハ日本ニ馮ハ獨逸ニ外遊セシメ兩人ヲ同地ニ居ラシメサル事ニ決シ居リ又石友三ハ寧夏省主席ニ内定シ山西主席ハ多分趙戴文ナルヘク楊虎城ハ既ニ本月二日西安ニ入城シ陝<sup>(隠)</sup>西主席トシテ執務セリ馮軍ノ一部ハ甘肅方面ニ退却セルモノノ如ク孫連仲ハ約二萬餘ノ部隊ヲ有シ新鄉其ノ他ニ駐屯セル

力同軍ノ大部分カ馮玉祥ニ復歸シタリト傳フル者アル  
モ右ハ事實ニ非スシテ同軍カ甘肅ニ移動説ハ未タ確定  
シ居ラス

三、魯西方面ニハ西北軍ノ騎兵鄭大章ノ主力第一師劉鳳岐

部約一千餘名ハ河南東明方面ヨリ漸次曹州曹縣地方ニ

移動シ居ルカ右部隊ハ韓又ハ中央ノ何レニ改編セラル

ヘキヤハ未定ナルモ鄭ハ自分（陳）ト同學ニシテ韓主

席ヲ尊敬シ居ルニ付劉部ノ魯西移動ハ韓ノ諒解ノ上ニ

行ハレ居ルモノナリ

四、膠東方面ニハ未タニ土匪軍猖獗シ居ルヲ以テ第十四軍

曹福林部ヲ同方面ニ派遣シ徹底的ニ掃蕩中ナルカ之ニ  
依リ劉珍年軍トノ關係ヲ云々スル者アルモ現ニ劉ノ代  
表者當地ニ在リ斯カル懸念絕對ニ無シ云々（韓軍ト劉  
軍トノ關係ニ付過日韓ハ本官ニ對シ芝罘ニ於ケル海軍  
陸戰隊ハ劉珍年軍ニ好感ヲ有セサル模様ナルモ劉軍ハ  
僅カ二萬ニ過キス自分（韓）トシテハ劉ニ反感ヲ抱カ  
シムルカ如キ舉ニ出テサル方針ナリト語リタリ）

上海、北平、青島、奉天、天津、漢口、廣東へ轉電シ南京、  
芝罘、張店、坊子、博山へ暗送セリ

586 昭和5年11月18日 在天津田尻總領事代理より  
常原外務大臣宛  
天津国民党部組織を定めたるも東北側の了解  
なく活動停頓状況につき報告  
(11月28日接受)

機密第九二五號  
昭和五年十一月十八日 在天津

機密第九二五號  
昭和五年十一月十八日 在天津

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

天津市黨部近狀ニ關スル件

天津市黨部ハ奉天軍ノ入關以來内部組織ヲ定メ(1)宣傳部  
(部長魯蕩平)(2)組織部(部長陳石泉)(3)訓練部(部長劉  
不同)(4)民衆訓練委員會(委員長劉不同)(5)秘書處(秘書  
長苗培成)(6)常務委員(苗培成、陳石泉)トシテ黨部管下  
ヲ八個區黨部、三十六個區分部ニ分チ大々的工作ニ着手セ  
ントシタルモ奉天側ノ態度豫期ニ反シ經費ノ支出ヲ爲サ  
ルノミナラス黨部ノ活動ヲ嫌ヒ一切外部的工作ヲ禁シ壓迫  
的態度ニ出テタル爲メ劉不同ハ先般南京ニ至リ政府當局ニ  
事情ヲ訴ヘ且奉天ニ至リ張學良ニ面會黨部活動ニ關シ諒解

六、三民主義教育ヲ普及シ以テ黨ノ基礎ヲ健全ニスルコト  
七、女子職業ヲ振興シ以テ男女經濟ノ平均發展ヲ期スルコト  
八、交通ヲ整理シ以テ全國的文化發展ヲ期スルコト  
尙苗培成、陳石泉ノ兩幹部ハ南京ニ滯在中ナルカ魯蕩平ハ  
十七日夕打合ト稱シ南京ニ向ヘリ  
右報告ス

本公司信寫送付先 在支公使 北平 上海 青島 南京

廣東

587 昭和5年11月19日 在天津田尻總領事代理より  
幣原外務大臣宛

東北軍入閨後の河北省と国民党との關係につ  
き調査報告

機密第一〇一一號  
昭和五年十一月十九日  
(12月24日接受)

在天津

總領事代理 田尻 愛義〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

- 一、貪官汚吏、土豪劣紳並ニ共產黨ヲ肅清スルコト
- 二、民衆ヲ指導シ社會ノ軌道ニ入レ以テ一切ノ苦痛ヲ解除  
スルコト
- 三、民生ノ困難ヲ解キ善良ナル社會ニ改良スルコト
- 四、勞資爭議ヲ解決シ一切ノ不平等條約ヲ取消スコト
- 等ヲ發表シ其他意見ノ交換ヲ爲シ午后五時頃散會シタリ  
ルト同時ニ左記八項ヲ提案討議ヲ要求セリ
- 一、汪闇馮等ヲ嚴罰スルコト
- 二、各級黨部指導政治方策ヲ規定スルコト
- 三、編遣ヲ勵行スルコト
- 四、軍政分治ヲ速ニ行フコト
- 五、行政工作ヲ定メ以テ共匪ノ憂ナカラシムルコト

十月廿一日附亞一機密合第一三八〇號東三省ト國民黨トノ

關係取調ノ件ニ關シ東北軍入關後ニ於ケル河北省ト國民黨ノ關係ニ付當館警察ノ調査報告御参考迄送付ス

本公信寫送付先 在中公使 北平 奉天 上海 南京 青島

### 島

記

#### 一、河北省首腦部ノ國民黨ニ對スル感情竝ニ政策

現在河北省首腦部トシテハ主席王樹常京津衛戍司令于學忠及各廳長政務委員等ナルモ天津市ニ於テハ右ノ外代理市長臧啓芳公安局長張學銘等アリ而シテ之等ノ國民黨ニ對スル感情ハ何レモ良好ナラス其理由トスル處ハ黨部ハ稍モスレハ省市政府ノ妥當ナル政治ノ執行ニ干涉シ監視糾彈ヲ試ミ其他工會ノ組織ヲ許シ又民衆ヲ直接指導監督シ民衆運動ヲ助長セシムル結果罷工風潮勞資爭議ヲ誘發シ其間隙ニ乘シ共產主義者ノ活動猖獗トナリ等奉派ノ政治政策ト相反スル點多キノミナラス一般ニ政治外交共ニ何等俾益スル處ナシト云フニアリ此ノ故ニ奉派トシテハ之ニ壓迫ヲ加ヘ度キ意向ナル力目下南京政府擁護ノ立場ニアルヲ以テ表面上嚴重取締

#### 二、天津一般官民間ニ於ケル國民黨ノ氣受如何

A黨部成立以來河北省ニ於テ黨費貳拾餘萬元ヲ費シタルモ何等成績揚ラス又官民ノ得ル處ナカリシコト

B國民黨活動ノ要旨ハ民衆ノ指導三民主義ノ普及ニアリト云フモ事實ハ下級農工學商民ヲ煽動スルヲ以テ主ナル工作トナス爲各種好マシカラサル風潮ヲ高メ多數ノ失業者ヲ出シ治安ノ維持ニ困難ヲ感セシメ且

資本家ノ營業ヲシテ著シク不振ニ導クコト  
C曾テ反日會ヲ組織シ在津商民ニ莫大ノ損害ヲ蒙ラシメ且之レニ依テ同會委員ハ多大ノ私腹ヲ肥シ又黨權ノ專政ヲ實行シ又對外感情ヲ惡化セシメタルコト

#### 三、天津ニ於ケル黨務整理委員其他黨員ノ活動振り

現在天津市黨部整理委員ハ劉不同、魯蕩平、苗培成、陳石泉ノ四名ニシテ山西軍天津ヲ退却スルヤ本年十月十二日從來閉鎖セラレアリタル事務ヲ開始シ同時ニ組織及擔任ヲ臨時のニ左ノ如ク定メタリ

宣傳部長 魯 蕭 平

組織部長 陳 石 泉

訓練部長 劉 不 同

民衆訓練委員會 劉 不 同

秘書長 苗 培 成

常務委員 陈 石 泉 尚各部ニ總幹事一名幹事六名乃至拾名アリ

ヲナス事ヲ得ス又市黨部首腦者劉不同ハ張學良ト同鄉關係ニアリテ學良モ止ムナク黨務工作ヲ承認セル狀態ナル爲當地官憲ハ從テ消極的方法ヲ以テ壓迫ヲ加ヘツ、アリ即チ(一)數回ニ亘リ黨部ヨリ經費ノ支給ヲ要求セルニ對シ軍費ノ支出繁要ナリトノ名義ヲ以テ應セス又中央ヨリ支給方勸告シ來ルモ省ミス

(一)學良ハ工作ヲ認メ中央ヨリハ取締ノ緩和ヲ求メ居ルニ拘ラス當地方官憲ハ未タ整理終ラストノ理由ニテ黨部ノ屋外工作ヲ禁シ且民衆團體ノ指導ヲ許サス(三)黨員ニ對シ積極的ニ保護ヲ加ヘ居ラサル等其ノ實例ナリ二、天津一般官民間ニ於ケル國民黨ノ氣受如何  
國民黨ノ天津一般官民間ニ於ケル氣受ハ甚タ良カラス其理由ノ主ナルモノ左ノ如シ  
A黨部成立以來河北省ニ於テ黨費貳拾餘萬元ヲ費シタルモ何等成績揚ラス又官民ノ得ル處ナカリシコト  
B國民黨活動ノ要旨ハ民衆ノ指導三民主義ノ普及ニアリト云フモ事實ハ下級農工學商民ヲ煽動スルヲ以テ主ナル工作トナス爲各種好マシカラサル風潮ヲ高メ多數ノ失業者ヲ出シ治安ノ維持ニ困難ヲ感セシメ且過去ニ於ケル全盛時代ハ黨員ノ數八百餘名ニ達シタルモ其後改組派及共產黨勢力ニ侵蝕セラレ目下活動ニ從事シ又黨籍ヲ有スルモノハ僅ニ天津ニ於テ百名内外ナリ  
右市黨部員ハ山西軍引揚ニ當リ九月廿二日強制的ニ市黨部ノ接收ヲ爲シ直チニ工作ヲ開始シ宣傳及民衆團體ノ指導並ニ反馮閻運動ニ着手シタルカ殘務整理中ノ山西側ハ東北官憲ト協議シ之ヲ壓迫シ工作ヲ中止シ又不當ノ舉ニ出テタルモノ數名ヲ一時檢束スルニ至レルヲ以テ黨務委員ハ張學良ニ打電シ當地官憲ノ不都合ヲ詰リ且其取締ノ緩和方要求セルモ要領ヲ得ルニ至ラス仍テ九月末劉不同、束頤聲ハ奉天ニ赴キ學良ト直接交渉ノ結果工作ハ承認スルモ奉軍入關後諸事整理中ニ屬スルヲ以テ積極的行動ヲ許サストノコトナリシヲ以テ止ムナク此ノ事情ヲ南京政府ニ報告シ對策ヲ講シ且經費ノ要求、缺員ノ補充等ヲ協議スル目的ヲ以テ陳ハ十月中旬南京ニ赴キタリ右南下協議ノ結果ハ詳カナラサルモ大体經費ハ差當リ維持費トシテ壹千五百元ヲ支給シ他ハ十二月ニ入りテ相當多額ノ金額ヲ支給スルカ又ハ

奉派ニ交渉シテ支給セシムルコト委員ハ十二月一日ヨリ全國的ニ改組ノ豫定ナルヲ以テ暫時缺員ノ儘トスルコト工作恢復ニ付テハ中央黨部ヨリ正式交渉ヲ爲スモ尙委員ニ於テ法ヲ設ケ交渉ヲ爲スコト並ニ官憲ノ態度ニ付テハ絶ヘズ報告ヲ爲シ必要ニ依リテハ中央黨部ニ黨權保護命令ヲ要求シ以テ三民主義ノ宣傳普及ニ努ムルコト等ヲ打合タル模様ニテ尙劉ハ張學良南下ノ途中天津ニ滯在スルヤ十一月九日親シク談合ノ上宣傳費トシテ銀壹千元ヲ河北省財政廳ヨリ受領シ尙今後モ引續キ黨部經費ノ支出ヲ要求セリ一方十一月十二日孫總理誕辰紀念大會席上魯蕩平ハ

A 革命外交ノ政策ヲ實行シ一切ノ不平等條約ヲ取消スコト

B 改組派、共產黨及閻馮逆徒ノ禍國害民ヲ肅清スルコト

C 貪官汚吏土豪劣紳及黨内一切不當組織ヲ艾除シ廉潔黨政軍機關ヲ設立スルコト

ヲ以テ工作要旨ナリト說キ又劉八十四日新聞記者招待席上右ノ外

京津地方ニ波及シタル當時ノ事例並ニ目下ノ狀態及計畫ニ徵シ先ツ以黨治國、以黨治政、以黨治軍ト國民黨綱領ニ基キ黨部ハ全ク專制ヲ實行シ又官憲ノ行爲ヲ監督スヘキヲ以テ軍政權ハ黨權ニ侵犯セラレ圓滿ナル行政ノ作用困難トナルヘク又黨籍無キモノハ官吏タルヲ得ストノ理由ニテ將來北支官憲ノ要職ニハ殆ト南方人ヲ以テ占領シ北支人ハ僅ニ在籍者カ下級官職ニ携ハルヲ得ルニ過キ斯重界モ亦之ト同様ノ現象ヲ來スヘク從テ京津地方ハ人情風俗異ル南方人ニヨリ支配セラル結果官民ノ折合自然的ニ疎隔シ其意見ノ相違ハ遂ニ南北の反目ト變化スル虞アリ尙社會的ニハ黨工作活動ニ伴ヒ工人ト資本家トノ紛爭增加シ罷工停工頻發遂ニハ營業繼續不能失業工人ノ増加トナルヘク又一方黨部力國貨物ノ輸入<sup>(劫)</sup>防害セラレ又在支外資各工廠ハ運轉中止トナルノ外一面國貨ハ勞資爭議等ノ爲工場ノ閉鎖休業ノ餘議ナキニ至リ從テ商民ハ營業ヲスヘキ貨物品切レトナリ立行カサルニ至ルハ勿論工人ハ職ヲ失スル等種々北支官民ノ生活ヲ脅ス懸念アリト豫想セラル

A 民衆ヲ指導シテ社會ノ軌道ニ入レ以テ一切ノ苦痛ヲ解除スルコト

B 民生ノ困苦ヲ解キ善良ナル社會ノ改造ニ努ムルコト

C 勞資爭議ヲ解決スルコト

力主ナル工作目的ナリト語リ又馮闇等逆徒退却ノ結果黨ノ工作恢復シ今後愈々活動期ニ入りタルヲ以テ各紙共努メテ宣傳ニ援助セラレ度キ旨ヲ述フル等表面實際運動ニ入りタル如ク裝ヒ居レルモ事實ニ於テハ當地官憲ハ市黨部ノ復活ヲ許シタル當時同様一切ノ屋外ノ工作ヲ禁シ又劉及魯ト會見ノ際張學良ハ軌外ノ行動ヲ許サハル旨ヲ述ヘタルヲ以テ引續キ當地官憲ハ其方針ニ基キ取締ヲナシシハアルカ故ニ國民黨ハ事實上數名ノ委員トニ、三十名ノ黨員力屋内及各民衆團體ト聯絡事務ニ携リ今後ノ活動方法ニ付計畫及打合ヲ爲シ又此ノ事情ヲ中央黨部ニ報告シ指示ヲ請ヒ居ルト謂フ程度ノ活動ニ止マリ居ルカ如シ

四、假ニ黨ノ勢力擴大シタル場合京津ノ政治乃至社會ノ影響如何ノ豫想

上記ノ場合ヲ假想スルニ民國十七、八年國民黨ノ勢力

588 昭和5年11月19日 在中國佐藤公使館付武官より  
杉山(元)陸軍次官宛(電報)  
張學良の四中全会出席について  
昭和五年十一月二十日  
電報 十一月十九日午後 六時一分発  
八時八分着  
在支那公使館附武官  
陸軍次官宛  
支第三八四  
南京喜多報告第六六〇号  
學良ハ著寧以来四中全會議ニ列席シツツアルカ之ニ対シ中央ノ態度ハ歓迎ノ極ヲ盡シ只管籠絡ニ努メツツアリテ今日迄會議其他ノ席上ニテ蔣トハ幾度トナク僅少時間ノ會見ヲナシタルモ取纏リタル會見ハ遂ケアラサルカ如シ而シテ妹尾顧問ノ談ニ依レハ學良ハ二十二、三日頃迄滬寧スヘク其後上海杭州ヲ見物シテ歸北ノ予定ナルヲ以テ多分本月中ハ上海、南京間ニ滯在スルモノト認メラル又委員中ニハ鐵道關係者ヲ三名モ含ミアル矣ヨリ觀テ中央トノ間ニ満州鐵道問題ヲモ議スルニアラサルカ

589 昭和5年11月28日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)第一次国民政府會議における政治刷新案など  
に関する決議事項について

南京 11月28日後発  
本省 11月29日前着

## 第八七五號

廿八日第一次國民政府會議開催蔣介石、張學良、林森、王寵惠、于右任、朱培德、胡漢民、孫科、宋子文出席シ政治會議ヨリ回付セル第四次全體會議ノ決議ニ係ル政治刷新案等ニ關シ決議セルカ其ノ他ノ主ナル決議事項左ノ如シ

(一)内外債整理委員會章程ヲ修正シ王寵惠、張學良、王正廷、孔<sup>(孔)</sup>張熙、孫科、王伯群、宋子文ヲ委員トシ王寵惠ヲシテ委員長ヲ兼任セシム

(二)在伊國代理公使蔣履福ヲ中國波蘭間友好通商航海條約章程ノ全權代表ニ任命ス

(三)船舶登記法ヲ公布ス

上海ヨリ代理公使ヘ暗送セシム  
委細公信

拒絶シ得ス漸次軟化ノ模様ニテ連日隨員等ト熟議シ居レリ云々  
上海、南京、奉天へ轉電シ天津、張家口へ暗送セリ

591 昭和5年12月3日 在中国矢野公使館參事官より  
幣原外務大臣宛(電報)

蔣介石による北方鐵道財政各機關の中央への返還強要について

北平 12月3日後発  
本省 12月3日後着

## 第八一九號

平津總司令部ハ商震ヨリ閻カ一日太原發石家庄着ノ旨電報ニ接シ出迎ヘノ爲王樹常及于學忠ハ代表ヲ石家庄ニ派シタルカ彼等ハ三日專用車ト共ニ空シク引返シ來レリ衛戍司令部側ニテハ閻ハ既ニ大同ニ赴キ更ニ平綏線ニ依リ變裝シテ

天津ニ赴クモノナリト看做シ居ル模様ナルカ右ニ閑シ三日閻錫山參議張篤倫カ原田ニ爲セル内話左ノ通

一、閻ハ客月末一旦外遊ヲ決心シタルカ兩三日來又復意ヲ翻シ二日奉參謀長ヨリノ電報ニ依ルモ閻ハ今猶河邊村ニ

590 昭和5年12月1日 在中国矢野公使館參事官より  
幣原外務大臣宛(電報)

上海、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東へ轉電セリ

蔣介石による北方交通財政諸機関の中央への返還働き掛けに關する傅汝霖等より徐永昌宛電報

南京 11月28日後発  
本省 12月1日後着

## 第八一六號

十一月二十九日在上海傅汝霖及秋<sup>(秋)</sup>澄等發徐永昌宛電報  
蒋介石ハ張學良カ南京ニ於テ政權ノ中央返還ヲ高調シ居ルニ乘シ北方ニ於ケル一切ノ權利ヲモ完全ニ奪取セント欲シ居ルモノノ如ク之ニ對シ張學良ハ當初ハ婉曲ニ拒絶シ居タリシモ最近屢々中央服從ヲ表示シ且國務委員ニ就任セル等ノ關係ヨリ蔣ハ好機逸スヘカラスト爲シ宋子文孫科王伯群等ヲシテ連日北方ノ財政鐵道交通諸機關ノ同收方ニ付張學良ト諮詢セシメ之カ代償トシテ南京側ヨリ毎月五百萬元ヲ支出シ妥協セント努力シ居レルカ張ハ前記ノ關係ヨリ之ヲ

張學良の中央統一への応対振りに關する高凌  
百より蔣宛電報について

北平 12月9日後発

昭和五年十二月十一日

在廣東

## 第八二四號

## 密電情報

十二月八日天津高凌百發蔣介石宛電報

学良ハ着津後察哈爾及平津間ニアル部下將領ヲ召致シ南京ノ模様及中央統一ノ應對方ニ付討議シタル上軍政費收支豫算ノ提出方ヲ命シタルカ右ハ中央ニ引渡スヘキ河北各機關ノ收入中ヨリ右軍政費ヲ差引カム力為ナルカ如シ張ハ閻馮一派ニハ極メテ寛大ニシテ既ニ閻ト極秘裡ニ會見ヲ了シ閻馮馮トノ間ニ西北善後問題ハ現狀ヲ維持シ且ツ中央勢力ノ山西綏遠侵入防止方ノ默約成立セルモノノ如シ

上海ヨリ代理公使ニ轉報アリタシ

上海、南京、奉天、天津へ轉電シ張家口へ暗送セリ

593 昭和5年12月11日 在広東須磨總領事代理より  
幣原外務大臣宛

## 陳銘樞による四全會議報告の訳報

公第一三九六號 (昭和6年1月7日接受)

今般陳銘樞陳濟棠ノ歸廣ヲ機トシ十二月八日省黨部大禮堂ニ於テ聯合紀念週ヲ舉行シ陳銘樞陳濟棠以下各廳長省市黨部委員其ノ他各機關代表等約七百人列席シ頗ル盛大ヲ極メタルカ當日陳銘樞ノ爲セル四全會議ノ重要報告何等御参考迄大要左ニ譯報ス

記

## 一、黨務改革

黨務ハ廣東方面ニ於テハ何等ノ紛糾モ不良現象モ無キ處上海、南京方面ニ於テハ往々黨部萬能ノ弊ヲ生シ黨部ハ衆怨ノ府ト化シタル觀アリ就中安徽、山東ハ其ノ弊害最モ甚シク鳳陽縣（安徽省ニ在リ）稱スル縣ノ如キハ縣政府月收千元ニ滿タサル處黨部設置後ハ縣費遂年增加シ遂ニ二千元ヲ突破シタル程ニテ其ノ影響スル所尠カラス爲メニ今般四全會議ニ於テモ黨務改革力唱ヘラレタル次第

二、軍政民政分治  
過去數回ニ亘ル戰爭ニ依リ軍閥ヲ打倒シ國家統一ノ基礎鞏固トナリタルモ其ノ實軍閥ノ把握スル所専尠カラス仍テ今後ハ軍權、民權ヲ明確ニ區別セサルヘカラス本問題

ニ關シテハ余南京滯在中一日蔣主席公館ニ於テ胡漢民、吳稚暉、李石曾、蔡元培諸氏ノ會合ニ列席シタル際胡漢民ハ「軍民分治、黨政合作」ヲ提議シ今後軍民兩政ヲ混同セス軍權ハ絶對的ニ中央ニ交還スヘキヲ論シタリ

## 三、省區縮少

建國大綱<sup>(附)</sup>自治規定ニ依レハ縣ヲ行政單位トシ省ハ單ニ監督機關ノ地位ニ置クコトヽシ居ル處本問題ニ關シテモ討論ノ結果省ノ範圍ヲ縮少スル必要ヲ知リ本案ヲ明年ノ國民會議ニ提出スルコトニ決定セリ

## 四、九龍稅關設置取消

九龍稅關設置ニ關シテハ往年香港側ヨリ條件ヲ提出シタルヲ以テ行惱ミトナリタル處今般余ノ北上中宋子文力突

如南下シ無條件ニテ本件設置ヲ取極メタル由聞キ及ヒタルヲ以テ意外ニ思ヒ居リタルニ其ノ後香港ニ於テハ中山

594 昭和5年12月23日 在天津田尻總領事代理より

幣原外務大臣宛（電報）

山西・西北軍などの善後措置に関する張學良と關係將領などとの協議状況について

外務大臣男爵 壁原 喜重郎殿

總領事代理 須磨 彌吉郎〔印〕

聯合紀念週ニ於ケル陳銘樞ノ報告譯報ノ件

天津 12月23日後発  
本省 12月23日後着

屬ノ稅收年約六百萬元ヲ之カ基金ニ當ツル名儀ヲ以テ地方  
的ニ使用シ整理ヲ計リ得ル見込ナリ

公使、上海、奉天、南京ニ轉電セリ

#### 第五四五號

山西西北軍等ノ善後問題ニ關シ關係軍將領並ニ主腦者殆ド  
全部當地ニ集合シ連日張學良ト協議中ナル力未タ具体的決  
定ヲ見ス就中西北軍ノ善後措置最モ困難ナル模様ニテ學良  
ハ先決問題トシテ綏遠山西ノ財政情形ヲ詳細取調フル必要  
ヲ認メ右兩省ノ財政廳長孟元文仇燕天ニ召電ヲ發シタル趣  
ナリ右ニ關シ蘇体仁（前財政部特派員）ノ談ニ依レハ山西  
綏遠兩省ノ總收入年八千萬元（西北軍及客軍ノ分三千萬元  
ヲ含ム）ヲ要シ到底負擔ニ堪ヘサルヲ以テ山西側ニ於テハ  
此ノ際同省南部ニアル西北軍ヲ省内ニ移駐シ其ノ給養ハ中  
央ニテ處理スヘキ旨要求スルト共ニ山西軍十個軍團ノ改編  
縮小ヲ計畫中ナリ（現在ハ臨時辦法トシテ一切ノ稅捐ヲ倍  
加シ漸ク彌縫シ居ル由）尙五千萬元ノ山西銀行券（目下三  
分ノ一ニ通用ス）ノ整理策トシテハ張學良ヲ通シ中央政府  
ニ對シ民國十六年北伐當時財政部ノ認可セル山西金融善後  
公債二千四百萬元ノ復活方請求中ニシテ（本年夏中央ヨリ  
取消サレタル由）右復活トナラハ山西省内ニ於ケル中央所

595 昭和5年12月26日 在天津田尻總領事代理より  
幣原外務大臣宛（電報）  
山西・西北軍の善後措置に関する協議決定に  
ついて

天津 12月26日後発  
本省 12月26日後着

#### 第五四七號

山西及西北軍ノ善後問題ハ大体左ノ通り協議決定セシヲ以  
テ之ヲ中央ニ電報シ其ノ裁可ヲ俟チテ蔣介石張學良連署ニ  
テ發表スルコトトナレル由  
一、山西軍ヲ四個軍（約八万）ニ編成シ（一軍ハ二個師一  
師ハ二個旅一旅ハ二個團トス）商震徐永昌傅作儀楊愛源  
ヲ夫々軍長ニ任命スルコトト内定ス師長旅長等ハ近ク選  
定セラルヘク尙軍隊編成表ナルモノノ發表ヲ俟チ改編ニ  
着手ス其ノ結果ハ六万余ノ裁兵ヲ見ルニ至ルヘシ右裁兵

費ハ少クトモ二百万元ヲ要スル見込ニテ調達方法ニ付テ  
ハ財政當局ト協議中  
二、西北軍ハ二万余人ヲ裁兵シ其ノ殘餘（約三万八千）ハ  
一個軍トシ三個師ヲ以テ編成ス師長ニハ宋哲元孫良誠龐  
炳勛ヲ當テ宋ヲシテ軍長ヲ兼任セシム

三、軍隊編成表ノ制定ヲ俟チ張學良ハ點檢委員ヲ山西ニ特  
派シ各軍隊ノ點檢及裁（兵）事務ヲ辦理セシム  
公使、上海、北平、奉天、濟南、青島、南京、漢口、廣東  
ニ轉電セリ